

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書



令和4年8月
調布市教育委員会

災害に強いまちを目指して

次代を担う子どもたちを中心に，地域・家庭と一体となった防災教育を推進し，一人一人の防災意識の向上により，地域社会の防災力を高める。

目 次

第1章 令和4年度事業の概要

1-1 調布市防災教育の日とは	2
1-2 令和4年度事業の概要	4
1-3 令和4年度事業の総括	13

第2章 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」

2-1 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」の概要 ..	16
2-2 訓練参加職員からの意見と検討の方向性等について	20
2-3 意見交換で出された意見について	46

第3章 「命」の授業、啓発講話(活動・体験)の記録

3-1～20 小学校	48
3-21～28 中学校	68

〔資料〕

令和4年度 各学校実施内容（1～3校時）	78
----------------------------	----

第1章

令和4年度事業の概要

ねらい 東日本大震災の教訓を忘れない

- ◎ 「命の尊さ」について学ぶ
- ◎ 「自らの命は自らが守る」という意識を高め、児童・生徒自身が自助、共助のために必要な知識や行動様式を身に付ける
- ◎ 「地域と一体となった震災対応システム」を構築する



避難訓練（第四中学校）

1-1 調布市防災教育の日とは

平成23年3月11日に発生した東日本大震災がもたらした未曾有の被害に鑑み、調布市教育委員会においても、改めて自助意識の啓発や関係機関の連携を踏まえた全市的な対応の重要性を認識しました。

◆「調布市防災教育の日」の制定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの尊い生命が失われ、改めて「命の尊さ」について学ぶことや「自らの命は自らが守る」意識を高めて児童・生徒自身がそのための行動様式を身に付けていくことの重要性を認識しました。

このことから、調布市教育委員会では、平成24年2月に、調布市内のすべての児童・生徒が自助・共助の力を身につけるため、次の2点を目的に、毎年4月の第4土曜日を、「調布市防災教育の日」として決めました。

- ① 震災時の対応を学校の教育課程に明確に位置付け、防災教育を充実させていく
- ② 震災時対応シミュレーション(下記参照)の検証を行う

◆「調布市防災教育の日」の取組方針

調布市防災教育の日においては、児童・生徒に対する「命」の教育のほか、震災発生直後から学校関係者が行う初動対応や、地域の協力を得た避難所の開設と運営の訓練などを、学校と保護者・地域が一体となって、市立小・中学校全校で一斉に実施することとしました。

各校においては、次の3点を共通して取り組みます。

- ① 「命」の授業を1単位時間行う
- ② 防災に関する保護者・地域への啓発講話などを実施
- ③ 「震災時対応シミュレーション」の検証

◆震災時対応シミュレーションとは

震災時対応シミュレーションは、調布市立小・中学校28校において、学校の各施設や教職員の状況に応じ、発生後72時間(3日間)の対応事項を学校別に想定し、まとめたものです。

●発災想定

震災時対応シミュレーションでは、調布市において最も深刻な「多摩直下型の震度7の地震」の発生を想定し、発災想定時刻は、各学校の4校時授業中の「午前11時24分」としています。市内では倒壊家屋が多数発生し、京王線は運転を見合わせ、市内全域で電気・ガス・上下水道といったライフラインは全てダメージを受けて供給が停止、道路は損傷や渋滞で使用困難な状態です。

●震災時対応シミュレーションの構成

各校の震災時対応シミュレーションは、「学校現況等」（学校の周辺の施設や地理的特徴，学級数や生徒数などの学校概要，教職員のBCP（事業継続計画）想定状況，学区内の昼間・夜間人口数，避難所としての一時・長期収容可能人数，中学校においては生徒の奉仕活動の割当人数及び取組），教職員の対応時に想定される「係分け」，1～3日目までの「対応シミュレーション」の3部で構成されています。

●想定される係(例)

全体責任者を学校長とし，教職員は各係に分かれて対応します。シミュレーションでは，各係の担当教職員名を明記します。

▼係の例

①児童・生徒対応班	情報連絡係，避難誘導係，消火・巡視係，救護係，搬出係
②避難所支援班	総務・情報係，避難所係，物資係，救護・衛生係

▼震災時対応シミュレーションの例

市立第一小学校のシミュレーション

1 学校現況等

周辺環境： 調布駅近接。大型商業施設近接。甲州街道に隣接し，特別支援学級あり児童が多い大規模校。市役所からは一番近い小学校。電気通信大学や北多摩病院が近くにある。

学校概要： 19クラス，児童655人，特別支援学級固定学級3クラス19人，通級（きこえとことば）3クラス，都職員(教員・事務)38人，市職員(栄養士・給食調理員・業務員)5人。

教職員対応： 教職員自身の子どもを引き取り，家族介護等でやむを得ず1日目の終業時間後に帰宅することを想定する（40%減，38人→23人）なお，帰宅した職員については，各職場で事前に状況を把握し，交代で出勤する体制を組む。

学区域人口： 昼間人口約36,000人，夜間人口約20,000人

収容可能人数： 一時収容 966人，長期滞在 483人（地域防災計画による）

2 想定される係（全体責任者：学校長 _____）

児童対応班（責任者：生活指導主幹 _____） ◎は係の責任者

担当	業務内容	担当者
情報連絡係	人的・物的被害その他の異常事態を各係から報告を受け，学校長及び災害対策教育部へ連絡する。その他，災害に係る情報を収集し，関係者に連絡する。	—
避難誘導係	校庭（体育館）に避難誘導に当たる。広域避難所までの避難経路の確認を行う。児童の引渡しを行う。行方不明の児童の捜索を消火・巡視係に依頼する。	◎
消火・巡視係	校舎の被害の確認，行方不明の児童の捜索，初期消火，火元の遮断，出火防止対策，火災の警戒，ガス，水道等の元栓や理科薬品保管等の点検を行い，点検結果等を情報連絡係に連絡する。	◎
救護係	養護教諭を中心とする。救急薬品の確保，軽傷者への救急措置に当たる。重傷者については，応急手当を行い，災害対策本部，医療機関，医療救護所又は仮救護所に速やかに連絡をとるよう情報連絡係に指示する。心のケアへの対応をする。	◎
搬出係	重要文書の搬出。校舎内での火災や校舎への延焼のおそれがある場合は，非常持ち出し品を搬出し，管理する。なお，非常持ち出し品を搬出する事態が生じない場合は，他の係への応援要員とする。	◎

避難所支援班（責任者：副校長 _____）

担当	業務内容	担当者
総務・情報係	・避難所運営本部設置場所の決定 ・情報の収集，整理，確認及び伝達 ・避難者名簿の作成，整理，管理	—
	・避難所運営連絡会の設定 ・避難所内の情報提供場所の設置 ・市災害対策本部との連絡調整	—

避難所係	・避難所に使用するスペース ・避難者の誘導 ・ボランティアの組織化	・立ち入り禁止区域の指定 ・避難所生活のルール策定	◎
物資係	・防災備蓄用品の管理，配給 ・飲料水，生活用水の確保，配給	・救援物資の受入れ，整理，管理，配給 ・放き出し	◎
救護・衛生係	・医療救護所設置場所の事前確認 ・仮設トイレの確保・設置 ・トイレ，ごみ集積場の清掃	・医療救護所への協力（設置されない又は設置されるまで応急手当の実施） ・トイレ用水の確保 ・衛生管理	◎

1日目

時間	状況	調布市の対応	児童への対応	避難所対応
11:24	多摩直下型震災発生。倒壊家屋多数。京王線運転見合わせ。市内全域で電気・ガス・上下水道供給停止。道路は通行不能又は渋滞	市民に対し，防災行政無線で，地震の情報，火元の確認を周知する（総合防災安全課）	①児童に防災頭巾を被らせ机の下へ避難など安全確保（1次避難） ①給食調理員は，給食室の火気の安全を確認し所定の役割担当に従事	◎ 避難所運営 →震災初期段階では，教職員が中心的な役割を担う（地域防災計画・学校防災7-76）
			①伊東・高野教諭は体育館の安全確認。その後，一旦体育館に避難（2次避難） ①廣瀬教諭は児童の負傷状況の状況確認。応急処置	◎ 学校と地域 →避難所運営は，避難者と地域の協力を得て実施。
			◎ 役割分担の確認 →学校は，児童の安全確保体制，避難所開設体制がとれるよう役割分担しておく	◎ 備蓄品と庫の確認 →日頃から教職員全員が備蓄品と備蓄庫（校庭南側・体育倉庫棟）の鍵の所在を把握しておく

※学校長を学校災害本部長とし，生活指導主任・学級担任26人で保護者の引き取りまで児童対応。避難所開設・運営は副校長ほか11人と市職員5人で従事

1-2 令和4年度事業の概要

令和4年度の調布市防災教育の日は、令和4年4月23日土曜日に実施しました。事業開始から11年目、10回目(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため、中止)となっていることから、学校関係者、保護者、地域住民等への本事業への理解が広がっています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学校教育活動(「命」の授業・防災啓発講話)は、保護者・地域の方への公開を中止するとともに、避難訓練後の保護者への引取訓練についても中止しました。また、市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」は、避難所体験(小6児童・中3生徒とその保護者)を中止し、訓練の場所は、体育館・校舎外回りに限定したうえで実施しました。

◆令和4年度事業における事業概要

1 実施日・場所

令和4年4月23日(土)

市立全小・中学校28校、大町スポーツ施設(市統一テーマ訓練のみ)

2 事業概要等

(1) 事業概要

時間	学校教育活動(例)	市統一テーマ訓練 「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」
8:45		
9:15	1校時 防災啓発講話	市職員・地域の方集合
9:30		・自己紹介
9:45		・一日の流れの説明 等
10:15	2校時 「命」の授業	
10:45	3校時 安全指導	避難所開設訓練
11:00	避難訓練 ・校庭への避難 ・講評(校長・消防署員)	
11:20	下校	
12:20		意見交換
13:00		片付け・消毒, 終了連絡
13:30		解散

(2) 学校教育活動

ア 「命」の授業・防災啓発講話

児童・生徒に命の尊さや「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を実施しました。また、調布消防署員、調布警察署員及び国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員（以下、国土交通省職員と表記）による、水害・地震をテーマにした講話（録画）、自助をテーマにした講話や、東日本大震災の被災地等の講師による、実体験に基づく防災啓発講話を実施しました。

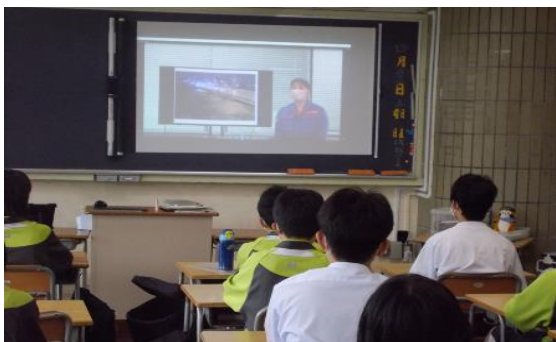
▼「命の授業」：校庭への避難方法について話し合う様子（石原小学校）



▼まちかど防災訓練車による消火訓練（北ノ台小学校）



▼防災啓発講話：国土交通省職員による水害に関する講話（録画）（第四中学校）



▼東日本大震災の復興に尽力された方による講話（第八中学校）



イ 避難訓練

全学年一斉に避難訓練を実施しました。

校庭へ避難した学校では、整列後、学校長及び調布消防署員（市立小・中学校の派遣希望校に限る）から避難訓練の講評がありました。

▼校庭への避難訓練（杉森小学校）



▼校庭への避難訓練（第八中学校）



(3) 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」

訓練テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員及び地区協議会*等の地域の方（自治会・地域学校協働本部*のコーディネーター・調布市防災市民組織*含む。）との協働により、令和元年東日本台風（以下、令和元年台風19号と表記）における避難所開設時の課題や感染症対策を踏まえた訓練を実施しました。

【訓練内容】校門の開錠方法の確認，総合案内・ペット避難場所の確認，建物利用調査，体育館の開錠方法の確認，感染症考慮時における避難所利用計画*を用いた図上訓練，応急給水訓練，防災備蓄倉庫の確認，体育館における感染症対策を踏まえた避難所開設・受付訓練，避難所運営本部（教育会館）との通信訓練，意見交換

【訓練参加者数】851人（市職員510人・教員52人・地域住民289人）

▼図上訓練：発熱者等動線を考慮した避難所利用計画の検討



▼感染症対策を踏まえた避難スペース設置訓練（1区画：1.8m×1.8m）



***地区協議会**：地区協議会は、小学校の学区をエリアとして、地域で活動する自治会や学校関連団体などにより構成されたネットワーク組織で、令和4年8月現在、市内全20の小学校区中、17の小学校区に設立されている。防災については、特に全地区共通の課題として捉えられており、避難所運営マニュアルの策定や、調布市防災教育の日における協力など、積極的な取組がなされている。

***地域学校協働本部**：学校支援活動をはじめとして、幅広い地域住民等の参画を得ながら、「学校を核とした地域づくり」を目指すための仕組み。調布市では、令和3年4月にすべての小・中学校で「地域学校協働本部」を設置し、今まで以上に学校と地域人材が組織的に結びつき、学校教育に参加できるよう体制を整備しました。

***調布市防災市民組織**：自治会やマンション管理組合等の下部組織として、災害時の被害防止・軽減に係る活動と防災意識の啓発活動を行い、自助・共助の取組を推進していただく団体。令和3年度末時点で139組織の登録があり、「自分たちのまちは自分たちで守る」を基本理念として、市内各地域において活躍されている。

***感染症考慮時における避難所利用計画**：感染症考慮時においては、避難所では避難者相互のスペースを保ち、発熱等の症状がある避難者の動線を分ける必要があります。本計画は避難者の避難場所や動線を示したものです。緊急対応として市職員が中心に作成していますが、今後、地域の方々との意見交換等を踏まえ、改善を進めていく予定です。

▼応急給水訓練



▼避難所運営本部(教育会館)との通信訓練



3 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 学校教育活動（「命」の授業・防災啓発講話）は、保護者・地域の方への公開を中止しました。また、避難訓練後の保護者への引取訓練についても中止しました。
- (2) 市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」は、避難所体験（小6児童・中3生徒とその保護者）を中止しました。また、訓練の場所は、体育館・校舎外回りに限定したうえで、児童・生徒との動線を分離して実施しました。

4 連携・協働の取組について

(1) 調布消防署との連携

調布消防署には、初年度の平成24年度から地域・保護者への啓発講話の講師をお願いするとともに、平成26年度からは市立小・中学校全校において署員が避難訓練を視察（令和4年度から派遣を希望する学校に変更）し、講評をいただいています。

今年度についても、避難訓練時における講評等のため、市立全小・中学校のうち消防署員の派遣を希望する学校に署員を派遣いただくとともに、毎年の輪番校として5校（緑ヶ丘小学校、染地小学校、北ノ台小学校、多摩川小学校、第六中学校）を定め、「命」の授業、防災啓発講話の講師として署員の方を派遣いただきました。また、今年度は、新たに、地震をテーマにした防災啓発講話（録画）を小学校低学年、中学年、高学年・中学生向けに分けて作成いただき、当日は、実施希望校（8校）において視聴しました。

▼避難訓練時の講評の様子（調布中学校）



▼まちかど防災訓練車による防火訓練（北ノ台小学校）



(2) 調布警察署との連携

調布警察署には、平成26年度から、防災講話の講師などをお願いしています。

令和4年度は、毎年の輪番校として2校（第三小学校、調布中学校）を定め、防災啓発講話における講師として署員の方を派遣していただきました。

▼防災啓発講話受講の様子（第三小学校）



▼防災啓発講話受講の様子（調布中学校）



(3) 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所との連携

今年度、新たに、水害をテーマにした防災啓発講話（録画）を小学校低学年，中学年，高学年，中学生向けに分けて作成いただき、当日は、実施希望校（13校）において視聴しました。

▼防災啓発講話視聴の様子（滝坂小学校）



▼防災啓発講話視聴の様子（第四小学校）



(4) (公社)東京都獣医師会多摩東支部との連携

国領小学校において、避難所開設時におけるペット避難場所について検証を行うとともに、同行避難の際の留意点に加え、ケージ等を用いながらペット避難に関する講話をしていただきました。

▼ペット避難に関する講話（国領小学校）



▼ペット避難に関する講話（国領小学校）



(5) 地域との協働（市統一テーマ訓練「避難所開設訓練」の実施）

令和元年台風19号における避難所開設後、初めて地区協議会等の地域の方（令和4年度から地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も参加）と市職員が協働で訓練を実施しました。当日は、市立全小・中学校及び大町スポーツ施設を会場として、建物利用調査や応急給水訓練、体育館での避難所開設や受付訓練等を実施しました。また、各避難所における課題を共有するため、意見交換を実施しました。

▼地域との協働による訓練（杉森小学校）



▼地域との協働による訓練（飛田給小学校）



(6) NPO法人調布心身障害児・者親の会・一般財団法人調布市市民サービス公社との協働

NPO法人調布心身障害児・者親の会、調布市市民サービス公社、福祉健康部と連携し、第三小学校において福祉避難所開設訓練を実施しました。当日は、震災時における福祉避難所開設の流れなどを確認するとともに、西部地域福祉センターへの要配慮者移送訓練、意見交換を実施しました。

▼要配慮者移送訓練（第三小→西部地域福祉センター）



▼要配慮者移送訓練（西部地域福祉センター）



(7) 市内都立・私立学校との連携

市内都立・私立学校に御協力いただき、防災教育の日と連携した取組として避難訓練等を実施いただきました。なお、市内都立・私立学校における取組は、防災教育の日と同日の4月の第4土曜日に限らず、周辺の日程で実施いただきました。

▼訓練等の概要

(人)

実施校	訓練の概要	参加者数
東京都立調布北高等学校	第1学年の生徒を対象に、調布消防署の協力のもと、放水訓練・救出訓練を実施。避難所開設に関する、総合防災安全課作成の動画を視聴（4月16日）	238
東京都立調布南高等学校	全校生徒を対象とした避難訓練（地震想定）を実施（4月20日）	705
東京都立神代高等学校	全校生徒を対象とした避難訓練（地震訓練）、けが人の搬送訓練（教職員のみ）を実施（5月18日）	855
明治大学付属明治高等学校・明治中学校	全校生徒を対象に、調布消防署の協力のもと、ホール・体育館への避難誘導訓練、緊急地震速報端末による緊急地震速報を運用した鳴動テストを実施。ホール・体育館への避難後、校内緊急放送を用いて、調布消防署員の講話を受講（4月26日）	1,400
晃華学園中学校高等学校	中学・高校全校生徒を対象とした避難訓練（地震想定）、担当教員から避難経路や防災全般について訓示を実施。高校1年生は、学年独自に防災オリエンテーションを実施（防災ワークシートと南海トラフ地震に関するビデオ視聴）（5月9日）	957
桐朋女子中学校・高等学校	小学校、中学校、高等学校、短期大学と音楽大学の一部を対象にした避難訓練を桐朋学園山川キャンパスにて実施（6月1日）	1,835
ドルトン東京学園中等部	中学1～高校1年生を対象とした避難訓練（地震想定）を実施。また、生徒3人が逃げ遅れたことを想定し、教職員が搜索する訓練も併せて実施（4月22日）	510
計		6,500

▼救出訓練（調布北高校）



▼避難訓練（明治大学付属明治高等学校・明治中学校）



(8) 市内企業との連携

スターツCAM株式会社の協力により、起震車及びスタッフを派遣していただきました（第一小学校、富士見台小学校）。

▼起震車体験（第一小学校）



▼起震車体験（第六中学校）



(9) 市長部局各部との連携

初動要員^{*}、避難所担当職員^{*}、学校避難所対応職員^{*}、管理職職員が各小・中学校及び大町スポーツ施設において市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」を実施しました。また、令和4年度新規採用の全職員が市統一テーマ訓練に参加し、訓練後には消防大学校において地域防災に関する訓練に参加しました。

(10) その他

フードロスの観点や児童・生徒への防災教育の一環として、防災備蓄倉庫にある今年度入替予定のアルファ米を防災教育の日前後の日程において市立小・中学校の給食で提供しました。

▼当日の給食の様子



▼当日の給食の様子



***初動要員**：休日・夜間時に災害が発生した際、市災害対策本部設置までの間の情報収集と応急対策活動を展開するための体制として、市内に居住する職員の一部を、初動要員（初動本部員及び避難所初動要員）として指定しており、担当する避難所（学校）の防災備蓄倉庫の鍵を保持している。

***避難所担当職員**：開庁時に災害が発生した際や避難を要する期間が長期にわたる場合に、避難所の開設・運営を行う職員として、避難所担当部（市民部・子ども生活部・福祉健康部・教育部）内において指定している。

***学校避難所対応職員**：避難所（学校）の体制強化を図るため、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員（正規・再任用職員の用務員・給食調理員・栄養士及び教育部教育総務課雇用の会計年度任用職員（用務員・給食調理員・事務））を避難所対応職員として指定している。

▼平成24年度（実施初年度）及び平成27～令和4年度の参加者数推移（人）

参加者区分	H24	H27	H28	H29	H30	R元	R3	R4
学校（教職員 ※1、児童・生徒※2）	14,853	15,586	15,838	15,903	15,921	15,947	16,685	16,967
保護者	10,223	12,668	13,030	13,334	13,616	13,836		
地域	1,728	985	1,236	1,010	957	660		289
市職員（避難 所担当職員・ 初動要員・学 校避難所対応 職員等※3）	90	197	224	313	311	313	490	510
消防※4・警察 職員※5		95	109	136	128	114	43	45
合計	26,894	29,531	30,437	30,696	30,933	30,870	17,218	17,811
前年度比増減		+1,454	+906	+259	+237	▲63	▲13,652	+593

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

※1 各年度実施日当日の在籍教職員数

※2 各年度5月1日現在の在籍児童・生徒数

※3 本部要員を含む。

※4 消防団員を含む。

※5 警視庁職員を含む。

なお、上表に、調布市内の東京都立高等学校及び私立学校の参加者数（P.10(7)の表）は含んでいない。

1-3 令和4年度事業の総括

より実効的な防災・減災の取組へ

東日本大震災の発生から11年が経過しましたが、この間も地震や豪雨、台風などの自然災害が日本列島を襲い、令和元年台風19号では、調布市でも多くの家屋が浸水し、市制施行後初めて避難勧告を発令して多くの方が避難所に避難されました。

地形の特性上、日本のどの地域においても地震や豪雨、台風などの自然災害が発生する可能性があります。しかし、災害の教訓から学び、備えることはできます。

災害から身を守り、被害を少なくするうえで最も大切なのは、自らが自らの命を守れるよう、普段から意識を持ち、備蓄を行い、家族と避難方法や集合場所を確認するなど、万全の準備と対策を行っておくことです。そして、いざ避難することとなった場合に備え、避難所となる学校において、普段から教職員や市職員、消防、警察や、地域の方々との連携を図り、訓練を積み重ねておく必要があります。

「調布市防災教育の日」は、令和4年度で10回目の実施となりました（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業のため中止）。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、予定していた事業の一部を中止しましたが、「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」を市統一テーマとし、市職員及び地区協議会等の地域の方との協働による訓練を市内各小・中学校28校及び大町スポーツ施設で実施しました。令和元年台風19号における避難所開設後、初めて市職員と地域の方との協働による訓練実施となりましたが、訓練に参加いただいた方々との意見交換を通じて、各避難所における課題を共有することができました。

首都直下地震や記録的豪雨などによる大規模な災害時においては、一定期間、電気・上下水道・ガスなどのライフラインや物流が途絶える可能性があります、相当な混乱が予想されます。避難所の生活は非常に厳しく、市職員だけでなく、その場にいる全員が当事者として協力し、互いに支え合うことが重要となります。

平常時から、災害時の状況を想定した訓練を実施し、市民、学校、関係機関が一堂に会してお互いの顔や課題を確認し合うという点において、調布市防災教育の日は一定の成果を重ねてきました。しかし、近年の自然災害を踏まえた訓練内容の見直し、感染症対策といった新たな課題や、さらなる防災意識の啓発、関係機関との円滑な連絡・調整など、改善すべき課題も少なくありません。

来年度以降も、引き続き、市・学校・地域・関係機関がそれぞれの役割を発揮し、災害時に適切な対応が行えるよう、連携・協働により、訓練の充実を図ってまいります。

第2章

市統一テーマ訓練

「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」

ねらい 東日本大震災，令和元年台風19号等の教訓を生かすとともに，新型コロナウイルス感染症対策を講じる

- ◎「不測の事態への備え」と「不断の備え」を怠らない
- ◎避難所開設・運営訓練に関する対応能力の向上・意識啓発に向けた効果的な訓練の実施及び地域との協働，学校・関係機関との連携の強化



市統一テーマ訓練（避難スペースの設置，杉森小学校）

※本章に掲載した職員からの意見等については，原則として原文のまま掲載しています。ただし，編集の都合上，括弧書きで補足している場合や個人名等に関する記述を省略している場合があります。

2-1 市統一テーマ訓練

「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」の概要

災害発生時には、調布市地域防災計画に基づき、市職員による災害への対応を行います。市役所開庁時には避難所担当職員が、休日・夜間など市役所閉庁時には、初動要員が避難所となる学校に参集し、避難所の開設や運営などの対応を行います。また、令和2年4月から避難所となる学校に勤務している一部の市職員を学校避難所対応職員に指定しています。発災時には避難所担当職員や初動要員とともに避難所の開設や運営などの対応を行います。

このため、調布市防災教育の日では、平成30年度から市統一テーマを定め、市立全小・中学校（大町スポーツ施設を含む。）において、地区協議会等、地域の方と協働による訓練を実施しています。

平成30年度及び令和元年度の2年間の市統一テーマは「避難所におけるトイレの確保・管理」と題し、各避難所の災害時のトイレの状況を確認し、災害時に使用するマンホールトイレ・組立トイレの設営訓練を行うとともに、避難所におけるトイレの課題を共有しました。

また、令和3年度以降は、市統一テーマを「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、訓練を実施しています（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校臨時休業のため中止、令和3年度は市職員のみで実施）。

◆訓練の概要

市統一テーマ訓練を「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」と題し、発災時における避難所の「円滑な初期対応」を習得するための訓練を行いました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、小6児童・中3生徒とその保護者を対象とした避難所体験を中止し、また、訓練の場所は、体育館・校舎外回りに限定したうえで、児童・生徒との動線を分離して実施しました。

▼目的、内容等

実施日時	令和4年4月23日（土）午前9時15分から午後1時30分まで
参加職員	合計851人（各部管理職・避難所担当職員（教育部，市民部，福祉健康部，子ども生活部）・初動要員・学校避難所対応職員等510人，教員52人，地域住民289人）
訓練の目的	令和元年台風19号の避難所開設時における課題を踏まえるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設訓練を実施することで、発災時に円滑・適切に避難所開設・運営が行えるようにする。
訓練の内容	校門の開錠方法の確認，総合案内・ペット避難場所の確認，建物利用調査，体育館の開錠方法の確認，避難所利用計画図を用いた図上訓練，応急給水訓練，防災備蓄倉庫の確認，体育館における感染症対策を踏まえた避難所開設・受付訓練，避難所運営本部（教育会館）との通信訓練，意見交換

▼タイムスケジュール（例）

時刻	訓練内容	訓練詳細
9:15	集合	・避難所担当職員のリーダーを中心に出席確認，自己紹介，訓練の流れの確認
9:35	校門開錠方法の確認	・学校避難所対応職員を中心に校門の開錠方法を確認
9:40	総合案内・ペット避難場所の確認	・避難所利用計画図に記載のある総合案内及びペット避難場所の位置を図面上で確認
9:55	建物利用調査・体育館の開錠方法の確認	・建物が避難所として使用できるか外観・建物内部等の確認方法について確認 ・学校避難所対応職員を中心に体育館の開錠方法を確認
10:25	図上訓練	・避難所利用計画図を用いて総合案内の場所，各受付・避難場所（一般避難者，要配慮者，発熱者等，ペット），避難者の動線，避難場所として使用できる教室を確認
10:40	応急給水訓練	・応急給水栓を用いた応急給水作業の手順を確認
11:15	防災備蓄倉庫の確認	・避難所開設初動期に使用する物品を中心に備蓄品の確認及び取出し
11:40	避難所開設・受付訓練（体育館） 12:15 通信訓練	・体育館でレジャーシート1枚分（約1.8m×1.8m）を1区画とし，避難スペースの設置・受付の設置 ・運営役と避難者役に分かれ，受付訓練を実施 ・避難所運営本部から各学校へデジタル防災行政無線を用いて一斉連絡
12:30	意見交換	・訓練についての振り返り，意見交換
13:10	片付け・消毒	・使用した物品，場所等をアルコール消毒液で消毒しながら片付けを実施
13:30	避難所運営本部への終了連絡	・デジタル防災行政無線を用いて訓練終了する旨を避難所運営本部（教育総務課）へ報告
13:30		訓練終了

●発災～職員参集

午前8時30分を発災想定時刻とし，調布市職員参集メールにより，次の情報を調布市全職員の携帯電話メールアドレスに発信しました。

「午前8時30分に震度6弱の地震が発生しました。第3非常配備態勢*となりましたので，安否と参集可否を登録し，直ちに参集してください。」

初動要員・避難所担当職員・学校避難所対応職員は，調布市職員参集メールから参集可能時刻を登録し，担当している避難所（学校）に参集しました。

調布市教育会館（教育総務課）では，各避難所からの情報集約や必要事項を連絡するため，避難所運営本部を設置しました。

*第3非常配備態勢：調布市の防災大綱である「調布市地域防災計画」に定められている，市職員の配置基準のうち最大レベルの態勢で，調布市において震度6弱以上の地震が発生した場合など，大規模な災害が発生した場合に発令され，全職員が災害対応に当たることとされている。

●校門等の開錠方法の確認～図上訓練

午前9時15分に各校に集合した市職員（初動要員、避難所担当職員及び学校避難所対応職員）及び地区協議会等の地域の方（自治会の方・地域学校協働本部のコーディネーター・調布市防災市民組織の方含む。）は、校門や体育館の開錠方法を確認しました。続いて総合案内やペット避難所となる場所について図面で確認するとともに、建物が避難所として使用できるかを確認する建物利用調査を行いました。その後、体育館に移動し、図上訓練として、校舎の避難スペースや避難者の動線を記載した避難所利用計画の確認を行いました。

▼校門開錠方法の確認



▼図上訓練の様子



●応急給水訓練～避難所開設・受付訓練

図上訓練後は、災害時における水道設備の給水機能停止に備えて、応急給水訓練を実施しました。応急給水訓練では、応急給水用資機材を用いて、給水までの作業手順を確認しました。その後、全員で防災備蓄倉庫へ移動し、格納されている備蓄品の確認を行った後、避難所開設に必要な物品を運び出し、体育館に一般避難者用受付や、レジャーシートを活用し、感染症を考慮した人との間隔を確保した避難スペースを設置しました。

避難所開設が完了した後、運営役と避難者役に分かれ、避難所名簿の新様式を使用した受付訓練を行いました。避難所受付訓練の間には、避難所運営本部（教育総務課）から各学校へ、デジタル防災行政無線による一斉連絡の通信訓練を行いました。

▼応急給水訓練



▼防災備蓄倉庫確認



▼感染症対策を踏まえた受付設置・受付訓練
(手指消毒, 検温等)



▼感染症対策を踏まえた避難スペース
(1区画: 1.8m×1.8m) の設置



●意見交換

令和元年台風19号における避難所開設後、初めて地域の方と市職員との協働による避難所開設訓練であったため、参加した地域の方からは、当日の訓練の振り返りを行うなかで、多岐にわたる御意見をいただくとともに、市職員と避難所の現状・課題について共有しました。

●防災行政無線を用いた通信訓練

訓練終了後はデジタル防災行政無線を使用して避難所運営本部（教育総務課）に訓練終了の旨を報告して現地解散しました。

▼デジタル防災行政無線



▼防災行政無線を用いた通信訓練

(避難所運営本部・教育会館)



2-2 訓練参加職員からの意見と検討の方向性等について

訓練に参加した職員から、以下の意見が出されました(協働による訓練に参加された地区協議会の方等、地域の方から職員が聴取した意見等が含まれています)。

出された課題を検討し、次回以降の訓練へ反映するなどにより、発災時の迅速かつ適切な対応に繋げることにします。

番号	項目	意見等	検討の方向性等
1	地域との協働	●●小は、台風19号の際も避難所開設運営した経験がある。地区協の役員の方から、その際の市職員の従事について感謝し、有事の際は頼りにしていることや、地域の方々は高齢であり、市職員の後方支援やサポートをしたいとお話いただいた。これまでの訓練の成果が有事にも発揮されたものと改めて認識した。	令和元年台風19号における避難所開設時の課題を踏まえると、避難所の開設・運営については、地域・学校との協働・連携が必要不可欠であると考えています。 発災時は、訓練時のように市職員の人員を十分に確保できない場合も想定されるため、地域の方々と協働による対応が必要となります。 今年度の市統一テーマ訓練は、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設訓練とし、令和元年台風19号における避難所開設後、初めて地区協議会等の地域の方と市職員が協働で訓練を実施しました。訓練の課題等は、地域・学校と共有したうえで、課題への対応を検討します。 引き続き、地域・学校と協働・連携した訓練を継続したいと考えています。
2		地域住民には、熱心に関心をもって訓練に参加いただけたと思う。様々な団体から参加していただけた。	
3		地区の方も積極的に参加していただき、協働して実施できた。	
4		地域の方に多数参加いただき、避難所として実際に開設し、運営していくことについて、ある程度、情報の共有はできたと思われる。	
5		年に1回は地域と協働した訓練があるようで、お互いの状況がある程度共有できているようだ。可能であれば、2回以上、内容は変えるとしても、訓練は重要と思う。	
6		地域の方々の参加により、活発な意見交換ができた。新入職員もかなり勉強になったと考えられる。地域の方々から、●●学校に実際に避難する方々の参加が必要では、との話があった。	
7		半日の訓練だったが、地域の方との交流も含めて、実りある訓練であった。有事の際は、指揮命令系統の中、お互いの信頼や顔の見える関係が必要になってくる。このような訓練は防災教育の日に限らず行うことは、震災経験を風化させないためにも必要であると感じた。	
8		全体的に職員主導の訓練ではなく、地域の方に失敗しても構わないので、体験してもらうことの必要性和、一緒に考えて行うことで、改めて確認できたことがあった。今後も、地域の方が、充実した訓練であったと思っただけの事を目指して、職員のコミュニケーション能力の向上が必要であると感じた。	
9		今回は、リバウンド警戒期間中の訓練で、コロナ感染者数が昨年より増加している中での実施であった。地域の方の参加も多くあり、避難所の開設、受付訓練等を通じて避難所運営の課題を共有することができた。地区協議会の皆様をはじめ地域の防災意識の高さを実感した。	
10		地域の方が高齢の人が多く、時間が長く感じた。部分参加でもいいのではという意見が出ました。	
11		地域の方から、訓練に参加して、イメージがわいて来てよかったと言っただけだった。参加職員もリーダー代理を中心に、一生懸命、助け合いながら訓練を行っていた。地域の方にすべて一緒に訓練を行っていただく必要があるのか。事前に職員で現場確認を行うなどし、地域の方に参加いただく訓練をコンパクトに実施できないか。高齢の参加者が多く配慮(休憩時間を設ける・椅子を用意する他)が必要であった。	
12		地域の方と一緒に訓練でき、数人だとしても顔がわかって良かった。	

番号	項目	意見等	検討の方向性等
13	地域との協働	当該報告書については「今後の事業運営に生かすため」に作成していると認識している。訓練当日にも必ず参加職員に伝えているが「他の職員がリーダーになっても運営が円滑に行えるように」という意識で訓練中に細かな説明を加えたり、本報告書にも記載している。しかしながら、報告書を出してもフィードバックがない現状である。意見・要望のうち次年度以降反映できない理由があるのならフィードバックすべき。意見交換をしても「反映されない、改善されない理由も付されない」ということであれば、意義もなくなる。「今後の事業運営に生かすため」に意見していることを御理解いただきたい。年度当初の本来業務多忙の中、各リーダーは訓練当日だけでなく、準備及び事後の報告作成等に責任感を持って当たっている。その中で出てきた意見について真摯な対応を求めるとともに、更なるリーダーの負担軽減（避難所開設時にはリーダー一人での運営は不可能という点において、他職員が積極的に担当となるよう）に努めてほしい。	本事業報告書や地区協議会の連絡会等を通じて、頂いた意見への対応等について、フィードバックを行います。全ての意見等と、それに対する検討の方向性については、本事業報告書を通じて、訓練に参加した全ての方（地区協議会等の地域の方、職員）と共有させていただきます。
14		説明会で総合防災安全課から「昨年の報告書については地域の意見を聞いていないので反映していない部分がある」との発言が繰り返しあったが、今年度は地域の意見を聞いたうえで報告している。上記（3）その他において「要対応・要検討・地域へのフィードバック」と記載したもののについては地域の方から出た意見なので、必ず検討または対応し、地区協議会等を通じて地域の方へ丁寧に説明いただきたい。	
15		今回、意見交換でだされた内容は何らかの回答は必要です。来年度実施の際に派遣管理職・避難所リーダーが矢面に立つことになるため、今後、訓練、発災時の避難所の開設運営の際の信頼関係を壊さないためにも真剣に検討し、応答を提示するべきと考えます。事務局が年間を通じて、リーダーや派遣管理職の判断で避難所運営の議論を地域の方と進めることも許容するなど、ある程度避難所運営責任者に応じた権限を付与する必要もあるのではないのでしょうか。	
16		参加された地域の方から、率直な質問、意見、要望をいただいたが、即答の難しい内容も多々ある。各避難所で出た内容について、市としての見解とともに取りまとめ、共有してほしい。	
17		感染症対策を踏まえた避難所開設訓練については、課題を地域住民や学校教員等と共有はできた。今後、地域の要望について対応していく必要がある。	
18		訓練後の意見や要望に対する回答があるとよい（検討経過を共有できるように）。	
19		地域の方々から、地域の住民がもっと大勢で来ないといけないと思うとの意見があった。ただ、それを自治会などから呼びかけるのは、難しいので、総合防災安全課などから、呼びかけて、一定の強制力を持った形で、参加していただくのはどうかとの意見があった。	今年度については、地区協議会等の方に加え、新たに地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も訓練に参加いただいています。中学校や地区協議会未設置の地区においては、地域の方の参加が少数となることから、訓練のみならず、避難所開設時における人員体制について検討を進めます。
20		地域の方からの意見。 発災時には市職員よりも先に地域の方が参集するため、地域の方をより多く巻き込んだ訓練を実施する必要がある。	
21		地域の方は、今回の訓練を踏まえ、当日参集した職員への信頼感を高めていただき、「災害時に誰が来れるのか」気にされていた。当然、初動要員の5名が来ることになっていることを伝え、説明会資料により、「初動要員」及び「避難所担当職員」の定義を説明した後、自己紹介すると理解の促進につながると感じた。	
22		地区協議会等の地域住民が隣接している●●学校の訓練に参加したため、●●学校は地域住民の参加がなく市職員だけで訓練を実施した。そのため、地域住民と連携した訓練が実施できなかった。	
23		発災時は、職員だけの避難所運営は不可能である。実行性を高めるため地域と連携した訓練を実施したい。防災市民組織が来るかもしれないという曖昧な状況だったが、結局来なかった。これまで以上に協力要請をお願いしたい。	
24		地域の方への説明等の機会が必要と実感した。なお、市民の方から、毎年10月に実施している●小地区での防災訓練に避難所担当職員が参加しないのかとの意見あり。また、●小地区では、市民が主体となって訓練をしている。本訓練においても、市民が主となり、職員がそれに加わるのでいいのではないかと意見あり。また、学校長から有事の際、徐々に学校機能も回復すると思う。その際、感染者の部屋をどのように戻していくのか考えてほしいとのこと。	
25		教育委員会や学校様に、地域の方も実際にどのくらいの方が●●学校と●●学校には集まれるのかなどを把握しておく必要があると感じたと感想を言っていた。	

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
26	地域との協働	今年度地域の方は0名である。今年度避難所を開設するとなると大変かと思われる。	今年度については、地区協議会等の方に加え、新たに地域学校協働本部のコーディネーター及び防災市民組織の方も訓練に参加いただいています。中学校や地区協議会未設置の地区においては、地域の方の参加が少数となることから、訓練のみならず、避難所開設時における人員体制について検討を進めます。
27		●●学校は、地域住民が避難所開設訓練に参加していないため、地域住民と避難所開設に関する課題を共有することができなかった。	
28		リーダー中心に意見を出してもらっていた。	
29		全般的には、充実した避難訓練が実施できたと感じている。ただし、高齢者や足に疾患のある方の参加者もいたため、事前に参加者の年齢や状況に応じた訓練内容の検討も必要ではと感じた。今回、当日は晴天で気温も高かったため、水分補給等は促しながらも、午後までわたる訓練は、少しハードのように感じた。	
30		地域の方に5人参加いただきました。間に1回休憩をはさみましたが、参加者が高齢の方が多いので、朝9時15分～午後1時30分ごろまでの(若い)職員と一緒に訓練参加は、若干長すぎるのではと感じました。地域の方が参加する内容を精査して、全部にご参加いただかなくてもよいようにするか、または、倉庫内点検や建物利用調査、意見交換等内容に較べ長い時間が設定されている(ように思われる)ものを、地域の方が参加するのを考慮したうえで、精査した訓練時間の設定にした方がよいのではと思います。	
31		実施時間が13:30までであるが、短縮することで、例えば地域の女性の方の参加率も上がるのではないかと考えます。	
32		地区協の役員の方から、●●高校の避難所担当が●●学校にきて訓練しているが、●●高校では実施しないのか。●●高校の近隣の住民は、有事にはそちらに避難してもいいの不安に思っているとの話をいただいた。都立高校は避難所に指定されているが、避難所開設訓練の実施はしているのかわからず、現実的に避難所開設する見通しはあるのか地区住民や職員に説明が必要と思っています。(既に周知済みでしたら、あとで教えてください。)	
33		地域の方から●●高校も避難所となっているが、きちんと避難できるのか教えて欲しい。との質問があった。	
34		発災時、地域の方のように、発災時に在宅、自宅周辺にいた方はよいが、たまたま来訪していた方など、準備なく避難に来る方に対するケアについても想定したほうが良い。	
35		地区協の方は、●●学校の訓練に参加されているとのこと、大町スポーツ施設には参加されなかった。●●の方の参加も必要ではないか。特に、応急水栓の運用についていくつか質問があったが答えられない質問もあった。	
36		①地区協議会、②2つの自治会及び③地域学校協働本部のコーディネーター等合計23人の地域住民に参加していただいたが、人数が多いことから訓練時には密になる場面も見受けられた。	
37		地域によっては「地域や学校の連携・協働」についてはかなりの温度差があると感じる。●●小はどちらの連携もなく、協働の意識はあまり感じられない(最初から最後まで参加した方や声掛けをしても実際に何か作業等した人はこれまで誰もいない)。見学のような参加のしかたで、知らない間になくなっていく現状。こうした地域のばらつきをなくすためにも、訓練(実際の避難所開設時を含む)における地域や学校の役割を明確にし、自助・共助の視点に基づき、協働して設営・運営を行う意義を理解してもらう必要があると思う。リーダー研修で●●学校の地域の方による台風19号発生時における避難所開設時の課題をお話いただく機会があった。市としても改めて地域との協働が必要であるとの認識にたって今回の目的の一つにしたものと理解している。一案として、こうした話を他の地域の方にも聞いてもらい(あるいは資料の提供)、地域の連携や避難者自身が運営に携わることの重要性・必要性などを理解してもらう機会を作りたいと思う。(すでに行っていたら恐縮ですが、理解は深まっていないと感じるため、意見します。)	
38		訓練で確認した課題等に対する対策方針が示されておらず、地域住民に対する説明に苦慮した。できることから、行っていくことはわかるが、現場では可否、対応予定時期等の説明ができるようにしないと、地域住民の継続的な協力を得ることは困難になるのではないかと、誰が何をどこまで担うのか、地域住民、初動要員、避難所担当職員の認識を共通化するプロセスはあったのか疑問。	
39	すべて市がするのであれば、地域は不要ではないか!		
40	地域と行政と別々の動きをして良いのか!		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
41	地域との協働	地域の防災訓練に職員にも参加してもらいたい。	令和4年4月から、全ての地区協議会に総合防災安全課の職員を防災に関する担当者として位置付けました。今後、各地区協議会が主催する訓練への職員の参加等、各地域の実情に応じた対応については、当該職員を通じて個別具体的に検討していきます。
42		避難所開設訓練は、市職員と地域の方々で実施しましたが、地域の方々が高齢化しており、市職員主導を望んでいることから、基本はこれではないかと思いました。無理に防災教育の日を実施するのではなく、秋に実施している地区協などの防災訓練の際に、職員が出向いて訓練すればよいと感じました。	
43	学校等との連携	今回の訓練に参加できなかった職員については、応急給水や避難スペースの設置方法等、実演を交えて共有する機会が必要となる。地域の方にとっては、顔と名前が分かっている関係性が安心感の醸成に寄与していることを実感した。特に、学校職員は、日常的に地域と接していることに加え、物資の状況についても、何処に・何が・どのように利活用されているか知識と経験が豊富であることから、訓練への参加が必要であると感じた。	これまでも、「防災教育の日」については、訓練と同時進行で「命」の授業等の教育活動を実施しています。このため、教員については、原則、教育活動終了後に可能な範囲内において訓練に参加しています。また、今年度においては、感染症拡大防止の観点から、学校教育活動と市統一テーマ訓練の動線を分け、訓練参加者は、校舎内に立ち入らないこととしたうえで実施しました。大規模災害発生時における教員の役割は、児童・生徒の安全確保、安否確認と学校教育活動の早期正常化に向けて取り組むことが優先されます。このため、令和2年4月から学校に勤務する用務員等を「学校避難所対応職員」と位置付けて避難所体制を強化しました。引き続き、人員体制や訓練内容を共有するなど、避難所となる学校と密接に連携を図りながら、取組を進めます。
44		学校等との連携は教育部の職員（管理職）が避難所のメンバーにすることでスムーズになっていくと思う。	
45		当日、学校用務員（技能主事）がいないという状況での訓練となったが、学校事務職員のお陰で円滑に訓練をすることができた。	
46		学校でも防災に係る事業を行っている中で、市の訓練を行うことが、学校にもものすごく負担がかかっているのではないのでしょうか。同じ日に行わなくても訓練の目的は達成できると思います。	
47		授業のある日で、コロナの状況や学校にもよると思うが、今回教員の参加は無かった。市の職員の訓練に対する形骸化感の傾向を減らすためにも多少でも参加してもらい、学校や付帯設備など施設の特徴、特色、近隣の状況などを教えてもらおうと違う見方もできるのではないかと感じた。	
48		●●協議会の皆様は非常に熱意があり、有意義な訓練が出来たが、施設管理者側である学校との連携については学校側の訓練もあったため実践することが出来なかった。有事の児童の動きや施設管理に関する方針などについて、地域・学校・職員の3者で意見交換をしたうえで取り決めを行い、図上訓練を一緒にできる機会があると良いように感じる。	
49		コロナ禍にあって、学校職員を除き学校側と全く接触ができないのは致し方ないと重々承知はしておりますが、せめて校長・副校長先生とはご挨拶含めて接点を持っておいたほうが良かったのではないかと感じた。特に今回から派遣管理職という形のものがスタートしているわけで、顔合わせの部分は必要だったのではないかと感じている。	
50		住民も参加する形で意見交換をすると、避難所運営以外の災害対策についての意見が出る。持ち帰って担当部署に伝えるにしても、ある程度は全体を知っておく必要があると思われる。意見交換に教職員が参加していたが、校長以外は発言もなく、「訓練にも参加していない人がいるだけ」となっていたので、次回からは訓練参加から求めるか、意見交換には校長・副校長と担当職員のみ参加などにしたほうがよいと思う。	
51		都の教育委員会の方針ともなっているはずだが、教員に「自分も災害対応に協力する必要がある」という意識が無いように感じる。市の職員がかけつけるまでに時間があるとき、避難所開設等ができるか不安がある。学校の利用についても、なにかと「教育の再開に支障が」という言葉を出すのが、台風19号での避難所開設の例など、実際の運用について体験した教員から話してもらうなどの機会を持ってもらいたいのではないかと思う。	
52	クラブ活動で体育館を使用予定と11:50生徒から申し出あり。生徒には館外で待機してもらい、訓練を短縮して行った。避難所開設訓練を13:30までは行う旨、教育総務課から学校に連絡してもらいたい。		
53	体育館の避難所体験・受付訓練を始める前から、部活動で体育館を使うバスケットボール部の生徒が訓練の終わるのを待っている状況だった。体育館を使用する避難所体験・受付訓練の時間を訓練の冒頭にしてほしい。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
54	学校等との連携	実施要領上11:40から体育館での開設及び受付訓練を想定していたが、●●小では体育の授業を行っており、「4時間目までは使えると聞いている」とのことで12時を過ぎても授業を行うとのことであった。授業の妨げとならないよう可能なことを進めているうちに、担当教諭が12時前に切り上げてくれたためなんとか設営することができた。訓練最期のカリキュラムのため、他の訓練との入れ替え等ができず、また、終了時刻にも大きくかかわってしまう。学校側の認識誤りだったかもしれないが、更なる学校との連携や周知・徹底に努めていただきたい。	これまでも、「防災教育の日」については、訓練と同時進行で「命」の授業等の教育活動を実施しています。このため、教員については、原則、教育活動終了後に可能な範囲内において訓練に参加しています。また、今年度においては、感染症拡大防止の観点から、学校教育活動と市統一テーマ訓練の動線を分け、訓練参加者は、校舎内に立ち入らないこととしたうえで実施しました。 大規模災害発生時における教員の役割は、児童・生徒の安全確保、安否確認と学校教育活動の早期正常化に向けて取り組むことが優先されます。 このため、令和2年4月から学校に勤務する用務員等を「学校避難所対応職員」と位置付けて避難所体制を強化しました。引き続き、人員体制や訓練内容を共有するなど、避難所となる学校と密接に連携を図りながら、取組を進めます。
55	事前の研修	地域の方も出席しているにもかかわらず、説明が市職員向けであり、最後の質疑応答でも質問と回答が食い違っているような気がした。地域向けに研修資料の配布や給水栓操作の説明動画の公開も検討してほしい。	頂いた意見を踏まえ、説明会の内容や資料配布時期等の事前準備の改善について検討します。
56	研修・説明会などの事前準備	職員用と地域の方への説明会を別にするか、パートごとに分けるなど工夫して地域の方への説明が必要（今回の説明会の内容は市職員に対しての内容だけだったため、終了後にも地域の方から「何をやればいいのかわからない」など苦情があった）。説明会では顔合わせも目的としているが、説明会に参加した方は当日来ない（●●小は来なかった）などある。それらを踏まえ事前説明会の在り方を検討する必要があると思う。※顔合わせを第一目的とするのではなく、地域の方の連携・協働について理解してもらうことに主眼を置くべきと考える（目的が連携・協働でなくても）。	
57	事前準備	事前説明会が長引き、顔合わせ及び打合せの時間がほとんどとれず、結局リーダーで段取り当日説明することとなり負担がさらに高まってしまいました。このことにより、本来業務の時間を圧迫されました。	
58		勤務時間内の実施は、業務の都合で、保育園・児童館等の参加が難しいため工夫が必要。市職員には、一時避難所と二次避難所の役割や地域住民との関わりについての説明と共通の説明を行った後、各避難所ごとに、顔合わせを行い、避難所の状況や訓練内容を理解していく必要があるのではないかと。地域住民には、まず、自助・共助・互助が必要であること、公助には限界があり地域住民の協力が必要であること。震災と風水害の体制の違いなどを理解していただく必要がある。顔合わせは全員ではなくても良いのではないかと。	
59		訓練当日はリーダーからの指示内容が多くみられたが、適時適切な指示が行われていた。リーダー研修の実施は今後も継続が望ましい。	
60		事前の研修・説明があまりにも不十分だと感じた。理由としては、①やるべきことの情報が事前研修当日に発表。；リーダーがやるべきこと（サブリーダーを中心に役割分担をするなど。）は、増加傾向にあると思う。一方で、事前研修当日にならないと何も情報がない。これでは、役割分担どころではなく、何を説明していいのかすらわからない。	
61		リーダー向けの事前説明については、全体説明会日ではなく、せめて前日までに実施して頂くと、多少準備したうえで全体説明会に臨めるかと思えます。	
62		避難所開設のリーダーとしての指示や参加者との顔を合わせもほぼ年に一回だけであり、特に訓練参加者への指示等は事前に配布・提供される資料、説明会のみに基づいての指示になるので、具体的により分かり易い資料を作成を今後お願いします。特に、サブリーダーの人にも事前の説明会や資料で、サブリーダーは具体的に何をするのか分かるような内容明記・説明をお願いします。また事前説明会でも意見が出ていたが、意見交換で出された意見等について、それに対する反応があると助かります。	

番号	項目	意見等	検討の方向性等
63	事前の研修・説明会などの事前準備	情報提供があまりにも少ない。例：当日欠席者の連絡。市民の参加の数。●●学校では移送訓練があること。訓練前日、出欠の最終確認をしたところ、欠席の連絡を本部に連絡済み。本部からリーダーに連絡しておくと言明を受けたとのこと。実際は、自分のところに本部からの連絡はなかった。また、当日、多くの市民が参加した。前もってわかっていたら、進行もかなり違う。そういった基礎的な情報がないと強く感じた。	頂いた意見を踏まえ、説明会の内容や資料配布時期等の事前準備の改善について検討します。
64		今年度実施されたリーダー向け説明会で「サブリーダーに役割を割り当ててリーダーは現場を指揮する」といった発言があったが、全体説明会でそのことについての話がなく、役割分担を実施したところ「今までは分担せずにリーダーがやっていた」等の意見をもらった。リーダーが指示しやすいような事前説明をお願いしたい。	
65		今回からやっとサブリーダーや避難所担当職員等の役割もある程度明確になった。全体説明会の直前のリーダー研修については、継続するのであれば、対象は新規リーダーやサブリーダーで良い。また、全体の説明では、サブリーダー以下の職員の役割について説明をすべきでは。リーダーの負担を減らすとともに、参加職員の意識の向上と自主的な参加を促すための取組について、今後継続実施していただきたい。実感としては、まだまだ人任せの姿勢が多く見受けられる。	
66		派遣管理職については、通常の説明と別に追加の説明会（特に重要なものなどにしぼった短時間のもの）を実施したほうがよいと思う。また、住民と教員の意見が対立した場合等の対応について、うまく調整するようあらかじめ「職務」として依頼しておくといいと思う。説明会資料は事前に配布し、説明会前に確認しておくこととし、説明会では要点のみとしたほうがわかりやすい。質疑応答について、今回は説明内容も多かったことから、何を質問していいかわからない状態だったのではないと思う。	
67		全体説明会は、パワーポイントで口頭で説明されるより、動画（2倍3倍速でも）で動きを見せてもらえるとわかりやすいとの意見があった。	
68		訓練内容のうち、建物利用調査や応急給水訓練、投光器開設など、専門的な訓練内容については、動画を作ってわかりやすくしたほうが、職員の理解度や実践に役に立つと思ったので、今後検討願いたい。	
69		資料提供がパワーポイントの資料。全体への説明会では、丁寧な資料です。ただ、複数枚またがる資料のため、当日の現場でリーダーや管理職が持つには、見にくい資料。多数の資料がワード・エクセル・パワーポイント等形式が複数あり、事前に確認するだけでもかなりの時間を要します。訓練項目に沿ったチェックポイントや取り出す必要物資などが、箇条書きの状態タイムテーブルのようなシートがあれば、全避難所で訓練が同じ内容でできると思う。タイムテーブルに沿ってリーダーも管理職も漏れが無いよう進められる。結果、そのシートに☑をするような報告書であれば、速やかに作成・報告ができると思う。	
70		訓練の項目ごとに実施する内容や確認ポイントなどを一覧表にしたものがあると、当日の訓練がスムーズに進行できると思う。事前に配布された訓練内容のページを見ながらだと、細かい抜けが生じがちである。	
71		マニュアル動画をYouTube等にアップして現場で確認できると良い。地域住民からも同様の意見があった。	
72		総合防災安全課で作成した動画についてYoutube等にアップロードしていただきたい。また、他にも組立や使用方法が複雑な備蓄用具については、組立・利用方法・注意点をまとめた動画を作成し、動画共有サイトにアップロードすると便利である。	
73		防災課職員の動画を静止画でプリントしたものをマニュアルにしても良いと思った。	
74		研修動画とマニュアルが、応急排水の有無で異なっていて、実施するのかわからなかった。マニュアルは応急排水⇒応急給水の順になっているため、応急排水をしない場合の手順の確認がしづらかった。	
75		事前に地域と行政と打合せをしないのか！（説明会時にも同様の意見あり）	
76		実施内容を一緒に検討することはできないのか。	
77		説明会欠席の地区協議会へのリーダーからの連絡について、必要な場合はいつまでに連絡が来るのかはっきりしてほしい。	

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
78	事前の研修・説明会などの事前準備	当日参加の地域の方、教員の方々に説明会資料が必要です。あらかじめ防災備蓄倉庫に予備資料を置いてください。	頂いた意見を踏まえ、説明会の内容や資料配布時期等の事前準備の改善について検討します。
79		事前説明会に参加せず当日のみ参加した地域住民の方が多く、備蓄倉庫内の説明会資料5部では不足するため、当日配布用により多くの部数を用意した方が望ましい。	
80		地域住民の方が予想より多く来たこともあり、次第、資料集を持たずに訓練をすることになった。これらなしに訓練の流れを説明するのは難しく、訓練内容の理解にも違いがあると思うので、人数の把握は難しいと思うが人数分の資料の用意をお願いしたい。	
81		先生2人が当日に参加された。学校が協力的だったが、事前に知らされていなかったため予備の資料がなかった。想定されているなら予備の資料が必要。防災備蓄倉庫に準備しておいてほしい。	
82		地域の方々10人ほど参加されていたが、説明会の資料を持っている人は1人で、他の方は訓練の流れがわからないので説明をと言っていた。地域の方にわかりやすい当日の説明資料があるとよい。	
83		コロナの影響で地域の方の参加がない状況の中で、何度か訓練を行ったり、土砂災害時の避難所開設をしていたため、地域の方と職員とで認識の差が大きくなっていくことを訓練の中で感じた。地域の方はほぼ事前説明会に参加されておらず、訓練当日にこれまでの取り組みなどの説明がもっと必要であったと感じた。特に初めて参加した地域の方とは認識の差が大きく、説明が足りないとの意見をいただく場面があった。	
84		住民から、「避難所開設の流れや実施する項目の一覧表を事前に作成しておく、避難所に来た人で役割分担できてスムーズに進められるのではないか」との意見があった。	
85	定期的に訓練を行うことで、段取りが良くなった。		
86	地震時と風水害時で避難所の対応も変わるところもあると思うが、地震と風水害時が混同して意見がいろいろ出てしまう場面があった（建物利用調査時など）。今回の訓練がどちらを想定しているのかを明確にした方が、課題も明らかになりやすいと考える。		
87	仮設トイレの設置やテントの設置等の設営の訓練を含めて実施すべきとの意見もありました。		
88	炊き出し訓練も必要との声あり。そこまでやると、地域との連携が作られるとの意見がありました。		
89	せっかく井戸があるのだから近くにマンホールトイレを3、4基設置できないかという意見有。		
90	マンホールトイレの訓練がなかった。設置場所だけでも説明があったほうが良い。		
91	市民から、簡易トイレの設置の訓練はやらないのかとの意見。やらないとしても、簡易トイレをどこに設置するのか、図上訓練で知らせないといけないとの意見あり。		
92	本訓練が誰のためのものかが不明確。地域との協働での訓練ということであれば、その点を強調すべきだと思う。●●学校は地域での訓練を行っているため、地域で防災の意識が高い。そのため、本訓練の考えに相違が多々あり。		
93	今回は応急給水訓練を行ったが、総合案内設置や発熱者避難所開設準備等の訓練は今後行うのか？		
94	統一テーマを設けるのは良いが、内容がずれている側面も否めないもので、無理にテーマを設ける必要がなかったのではと思います。そのほうが訓練の幅も広がります。		
95	毎回、同じ訓練を繰り返し行うことも必要だが、建物利用調査や応急給水訓練のように、初めて行う訓練を通し、市職員の知識や意識の向上を図ることも必要ではと感じました。		
96	訓練当日に急遽確認したい事項が生じたため、総合防災安全課に電話をしましたが繋がりませんでした。教育総務課と総合防災安全課の当日の分担がわかりませんが、各避難所からの問合せ窓口を事前にお知らせいただけると助かります。		
97	訓練回数を増やして欲しい。		
98	教育委員会との連携が必要である。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
99	建物利用調査	訓練内容の建物利用調査の訓練時間は、今回の内容であれば予定の30分もかからないと思います。訓練時間の設定について、もし時間をかけるのであれば具体的にどのような訓練方法で時間をかけて行ってほしいという、より具体的な内容を資料に記入してもらえると参加者も把握でき進行上助かります。なお、今回は意見交換について、ある程度指示項目があったので進行上助かりました。	今年度初めて実施した建物利用調査・応急給水訓練に関する内容については、地区協議会等の地域の方や市職員の理解が深まり、避難所開設時に円滑に対応できるよう、訓練内容の見直しやマニュアルの改善等に取り組みます。
100		体育館周辺に照明設備が多くあったため、マニュアルに加えていただきたいです。(周辺立入禁止とするなど)	
101		市職員で応急危険度判定員の資格を有している人は、どのくらいいるのか？また、市内ではどのくらい資格を有している人が登録しているのか？などの質問がありました。	
102		建物利用調査には一人では厳しいため、人員の再配置要望あり。	
103		震災後の体育館の破損を調べる際に双眼鏡があると良い。	
104		体育館内部の天井のライト等は距離があり肉眼での確認が困難なため、双眼鏡等が必要ではないか？	
105		体育館周辺に大木が多く、倒木の恐れがあるので、事前に調査が必要と思われる。	
106		体育館の耐震基準を公表してほしい。	
107		肉眼で確認しても、その後の余震等で新たに損壊が起きる場合もあるのでは？震度いくつまでなら耐える施設なのか事前に教えてほしい。体育館より教室のほうが安全ではないか？	
108		●●学校の緊急固定電話設置のための配線設置場所が、体育館外側の3m程丈夫である。非常時に電話を現状だと設置することができなくなる恐れがあるため、現地確認をしていただく必要がある。	
109		校舎から体育館に抜ける木製スロープが腐食している。新たに設置してほしい。車いす利用者が校舎内から体育館に抜ける際に、利用する必要がある。車いす利用者が利用できるトイレは体育館にしかない。直結給水管付近の地面が土である。コンクリートにしてほしい。	
110	ピロティの雨天時の状態を知っておく必要がある。		
111	応急給水訓練	誰でも対応できるよう、東京都のマニュアルをカラーで印刷し、できれば1枚ずつラミネート加工し、リングのようなもので左上を1点でくくするなど出来たら良いと思うが、それが難しい場合には、防水措置を講じたマニュアルが必要だと感じた。	
112		今回の訓練自体はマニュアルを見ながらできたので、今回使用したマニュアルを器具が入っている黄色い袋の中に入れて欲しい(黄色い袋の中に作業手順の紙が入っていたが、今回のマニュアルが分かりやすい)。また、その際は水で濡れるので、ラミネートをするなどして、防水の対応をしてほしい。	
113		ホースは使用しないので、マニュアルのホースの箇所は大きく×印をすると良いと思った。	
114		応急給水訓練では、地域の方から給水栓を回したら少し戻すよう(強くまわす恐れがあるため、少しあそびが必要)アドバイスがあった。	
115		空気を抜くための給水レバーの箇所が何回やっても間違いが多く、分かりにくかったようだ。	
116		開始、停止する時の止水栓が2箇所ほどあるため、順番が多少難しいとの意見があった。	
117		応急給水栓の仕切弁の中に2つの栓があるので、どちらが何か分かるようにした方がいい。	
118		誰がどのタイミングで準備するのか不明のため、マニュアルに入れてほしい。	
119		応急給水訓練において、消防団の方から「手順を誤るとケガをするので”給水栓を回したら少し戻す”など安全管理についての記載をマニュアルにいれるべき」というご意見をいただいたため、対応していただきたい。	
120		水を出せたのはよかった。	
121		黄色いバッグにタオルが入っていなかったため、入れておいてほしい。	
122		応急給水栓バッグ(黄色バッグ)の中に水質検査キットが入っていなかったため、補充をお願いします。	

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等		
123	応急給水訓練	夜間に給水装置を設置することは暗くて大変難しい。給水バックの中にライトを入れておくべき。給水栓が除草シートに覆われており、かつ什器や机が付近に廃棄されていた。災害がいつきても対応できるように、給水栓の付近の整理が必要である。	今年度初めて実施した建物利用調査・応急給水訓練に関する内容については、地区協議会等の地域の方や市職員の理解が深まり、避難所開設時に円滑に対応できるように、訓練内容の見直しやマニュアルの改善等に取り組みます。		
124		応急給水栓をのふたを開けると浸水していて、給水弁に開栓器をセットしずらかったので、水を汲み出すコップのような容器が資材器材袋の中にあると良かった。また、タオルや雑巾、軍手、はさみなどもあると良かった(備蓄倉庫まで取りに行った)。			
125		夜間の時間帯に給水作業が必要な場面では、防水仕様の照明器具とそれを固定できるスタンドがあるとよい。			
126		応急給水栓室の鉄蓋には、女性に対応する必要もあり、力がないので2人で対応する場合もあるので、2つ必要である。			
127		給水栓の開栓後の利用方法についてどのようにするのか。設置場所の足元が悪いので、安全確保をする必要がある。			
128		●●学校の応急給水の場所はかなり足元が悪い。子どもでも利用できるよう、あらかじめ安全確保可能な程度導線を確保する(整地など)必要があると思われる。			
129		給水場所が、池の橋を渡った奥にあり足場は不安定で危険。延長ホースなどがないと人の滞留が危険ではないかとの意見。			
130		そもそも●●小の給水場所は池が近くにあり、危険な場所にある。一般の人がどれくらい給水を利用するのか事前に想定していたほうがよい。			
131		応急給水栓の上にシートが被さっていた。			
132		給水設備設置が完了後、誰が給水できるのか？			
133		水道栓(応急給水)について、勝手に使用する人がいるのではないかとの意見があった。水道栓の利用は基本的に水道管が利用できるのが前提であり、開け放し等の無駄がなければ原則利用に制限は必要ないと考えるが、●●学校は設置場所の足元が不安定なこともあり、夜間等の利用における安全確保に課題があると思われる。			
134		応急給水栓の場所が狭い。設置するのに時間がかかるため、普段から設置しておく、囲っておくなどの対応はできないか。			
135		仕切弁の場所を探すのに時間がかかったことから、目印や図面上の標記に工夫が必要と感じた。			
136		給水訓練で仕切弁の位置が分かりにくくなったので、写真や図面等できちんと残すべき。			
137		蛇口が1口だけか？			
138		応急給水訓練について、蛇口が1つしかなかったが、実際には1つではとても間に合わない。複数の蛇口になるよう対応できないか。			
139		応急給水栓の蛇口は1つで足りるのか。			
140		受水槽からの給水が必要となることを想定して、受水槽の鍵を防災備蓄倉庫所定の場所に保管しておいた方がよいのではとの意見がありました。			
141		図上訓練		地域の方から図上訓練で使用していた避難所利用計画の学校平面図のクラスの割り振りが違っていたので最新のクラス名に随時更新してもらいたいとの要望があった。	現在の避難所利用計画図は、令和元年台風19号における避難所開設時の課題や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、令和2年の出水期前に作成することが急務であったことから、暫定的に作成したものです。児童・生徒数の増減等により、教室等の配置は、随時変更となることから、図面上の表記に対する時点修正の対応について検討します。
142				学校職員や地域の方々から、学校の教室等の配置が古いままとなっていると指摘があった。避難所利用計画は、各学校の避難所マニュアルに定められ、時点修正していると思うが、毎年度更新されるので、年度初めの早い段階で更新し、訓練にも反映されるとよいと思います。	
143	図上訓練に使う学校の配置図が古いので、アップデートして欲しい。また、●●学校は、プレハブ校舎が新しくできており、そちらもアップデートして欲しい。				
144	学校職員、地域の方から、避難所利用計画の教室等の配置内容が、更新されていない。教室配置は毎年更新されるので、反映すべきとの意見があった。				
145	教室配置は毎年変わっているが、図上訓練で使用した配置図が古い。教育総務課施設係が把握しているので、毎年度配置図を更新した方がよい。				
146	教室配置図が2年前のもので古く、新しいものに差し替えが必要である。				

番号	項目	意見等	検討の方向性等
147	図上訓練	避難所の利用計画図・避難者区画シートは掲示用や打ち合わせ用（手持ち用）に大小を含めて相当量の準備が必要。	現在の避難所利用計画図は、令和元年台風19号における避難所開設時の課題や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、令和2年の出水期前に作成することが急務であったことから、暫定的に作成したものです。児童・生徒数の増減等により、教室等の配置は、随時変更となることから、図面上の表記に対する時点修正の対応について検討します。
148		避難所開設時は南門のみ開けることとなっているが、地域の方からは北門と西門も開けるよう強い要望があった。3箇所開けた場合、校内の動線が分かりにくくなるので、混乱しないよう整理し、地域と連携する必要がある。	
149		一般避難所の体育館内に計画図とレジャーシートの配置図をはってほしい。一目で自身の避難場所がわかる。また、教室に避難となった場合もどこの教室に行けばわかる。また、上記2枚を両面で印刷したものをクリアファイルでわたすことで、避難自身が避難場所をいつでも確認できる、かつ、必要書類などをそこに入れられる。また、教室は使用するクラスが年ごとに変更になるため、防災計画上の教室をクラス標記ではなく、「いろはにほへと」など別の呼び方をしてはどうか。	
150	避難所開設（避難スペース）の設置・収容人数	去年のビニールテープで仕切りをつくるより今回のレジャーシートの方が断然やりやすかった。	今年度より区画の表示方法をブルーシートに変更しましたが、スムーズに設置できた一方で、複数人数で避難してきた場合の対応方法について、様々な御意見をいただきました。災害時においても複数人での避難が想定されるため、今後、よりスムーズな案内方法を検討します。感染症考慮時の収容人数については、これまで使用していなかった教室等の使用も想定しているため、一部の避難所において、通常時より収容人数が多くなっています。訓練で実際にブルーシートを敷いて確認した実測値の御意見を踏まえ、今後の方針を検討します。
151		レジャーシートになり設置効率が上がった。	
152		昨年ヒモを使用して、区画を作るよりは、短時間ででき、区画が分かりやすかった。	
153		レジャーシートでの設置は簡易で良かった。	
154		昨年度よりレジャーシートでの設置の方が作業しやすかった。	
155		参加者の人数も多いため、設置や撤去は手際よく行えた。お互いに声を掛け合うことで、うまく進んだともいえる。よい雰囲気であった。	
156		収容人数を超えたときは、無線で本部とやり取りをしながら、他の教室利用や他の学校への案内など必要となるだろう。	
157		別冊資料集P.29に避難所収容人数の一覧が掲載されているが、●●学校だけ地域防災計画上の収容可能人数より感染症考慮時の収容可能人数が多くなっている。感染症考慮時の収容人数の方が少なくなると思われるので、もう一度再考してほしいとの意見がありました。	
158		公表している収容人数が矛盾している。感染症考慮時の収容人数の方が多い。	
159		マックスの人数を再考するか、他の場所を検討したほうがいい。	
160		体育館の収容が想像以上に少ない。容量超過後の計画（他教室使用等）学校施設の使用について、協議・調整のうえ、計画に盛り込む必要あり。	
161		シート敷きの配置について訓練中に試行錯誤し、避難者の導線や受付、トイレの位置を考慮し、縦10シート、横1メートルの間隔を確保し7シートを配置した。各シートに避難者1人となると体育館での受け入れは70人が限界となる。	
162		資料上、感染症考慮時の収容人数は328人となっているが、体育館に敷いたブルーシートが62枚であったので、体育館の避難者数は62人とすると、全体で328人は難しいのではないかと。	
163		●●学校における感染症考慮時の避難所収容人数は264人とする中、今回の避難所開設訓練においては、区画番号として舞台上も活用した場合に最大83人分であることが把握できた。こうした現状や、令和元年台風第19号の際の経験を踏まえ、混乱が生じることのないよう、適切な避難所収容に向けた誘導が求められる。各避難所と災害対策本部が連携しながら、効果・効率的に行えるよう訓練の必要性に課題を感じた。	
164		一定の間隔をあけ、ブルーシートを体育館全体に敷き詰めても120枚程度であり、大きな災害時ではまかないきれないとの意見。	
165		体育館の避難スペースとして、121区画できたが、収容人数を超えた場合はどうするのか？	
166		避難所のキャパは400と聞いているが、レジャーシートは62枚しか敷けなかった。マックスの人数を再考するか、他の場所を検討したほうがいい。	
167		シートが90枚程度で教室と合わせて定員を収容できるのか、心配の声が上がった。	
168	感染予防対策ということで、シートを間隔を空けて設置したが、48枚しか設置できなかったため、実際に避難所を開設した場合、かなり不足することが予想される。シート1枚に何人まで避難するのか、明確でない。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
169	避難所開設（避難スペースの設置・収容人数）	●●学校の体育館は、7×7=49のレジャーシートの設置が可能です。	今年度より区画の表示方法をブルーシートに変更しましたが、スムーズに設置できた一方で、複数人数で避難してきた場合の対応方法について、様々な御意見をいただきました。 災害時においても複数人での避難が想定されるため、今後、よりスムーズな案内方法を検討します。 感染症考慮時の収容人数については、これまで使用していなかった教室等の使用も想定しているため、一部の避難所において、通常時より収容人数が多くなっています。訓練で実際にブルーシートを敷いて確認した実測値の御意見を踏まえ、今後の方針を検討します。
170		教室を避難場所として使用することも考えられることから、事前に収容の方向や上限人数を確認したほうがいい。	
171		現実的な収容可能人数を明らかにしてほしい。	
172		上記でも記載しているが、避難シート1枚における人数は何人なのか、改めてきちんと規定をしていただきたい。我々職員だけでなく、地元の皆様からも強く要望されております。それによって収容人数も全く異なってくるものと思います。また、家族単位でOKとするなら、現状の左右10cm幅というのも変更する必要があります。いずれにしても1シート1名なのか、家族単位なのか、家族なら何名までOKなのか、明確にする必要がある。	
173		1シートに何名まで収容すべきかが課題となった。訓練では5人以上の家族は2区画を与えるということにした。	
174		1枚のレジャーシートには大人2名までが限界ではないか。一時的な避難であれば可能かもしれないが一晩過ぎすとなったら難しいと思う。隣との距離が近すぎる。	
175		レジャーシート1枚につき1人だと受入人数がかなり限られてしまうため、乳幼児は親と一緒になど、同居の家族と一緒に過ごせる方は2人で1枚にするなどの検討が必要という意見が出た。	
176		1人1枚が基本だが、家族で避難に来られた場合には柔軟に対応できるといい。	
177		別冊資料集P20のとおり、レジャーシート1枚につき、避難者1人分のスペースという考え方で間違いはないか。発災時の混乱の中、避難者数の確保のため1グループでの管理が妥当ではないか。	
178		地域の方からブルーシートに1人ずつではなく家族2人（大人と子ども）など入れるよう検討が必要では。また、子どもは乳幼児など年齢によって親子一緒にブルーシートにするなど規定をもうけてはどうかとの意見があった。	
179		今回シートに家族二人までの設定なので、家族が4人いた場合の記述方法などの検討も必要⇒家族単位ではなくシート単位にしてはどうか。	
180		舞台上も含め、ブルーシートでの区画は83区画であった。家族の場合等1区画に何人までとするかといった具体的かつ適切な避難所収容人数の把握が必要である。	
181		あらかじめ避難所開設ができない震災の場合、避難者が待機している状況で、シートを1枚1枚引くのは時間的に厳しい。また、家族での避難を考えると、1シート1人という考え方は現実的ではないのでは？	
182		体育館に敷くブルーシートについて。避難者に番号を割り振って、そこに合致する番号のブルーシートに案内する運用だが、同一家族で1枚のブルーシートなのか、4人家族なら4枚のブルーシートなのか、判断に迷った。避難所名簿は一家族で1枚の番号を割り振る試用であったが4人ではかなり狭い。また、例えば10番と11番のシートに同じ家族を2つに分けて案内した際、シートの配置の列が変わって、遠い位置に配置してしまいかねない。であれば、体育館にブルーシートを敷いた案内図を事前に作成し、その案内図に番号を振っておき、避難者の人数や家族構成に応じて、職員が適正な場所のブルーシートへ案内するのがよいのではないか。	
183		資料のようにシートに番号を振って振り分けると、家族が分断されてしまうから困ると意見あり、らせん状に番号を振ってはどうでしょうかと提案)。子どもはどうするのか。家族は一緒にしたい。シートを離さず近づけたいという意見が多かった。	
184		体育館にブルーシートをはっていき番号をつけていくが、避難者を案内したときに、そのブルーシート最後と、次の列の最初に家族がわかれる場合も想定される。（あらかじめシートを張った図のようなものがあればいいか）	
185		レジャーシートの区画番号について、1列目が1番～12番、2列目が13番～24番と付番してあったが、受付訓練の際に、2区画を要する家族に対して、12番と13番を割り当ててしまい、避難場所が体育館の端と端に分かれてしまった。このようなケースでは12番を飛ばして、13番、14番を割り当てれば良かった。	
186	ブルーシート1枚に1世帯だとしたら、後から来た人を家族と合流させるには、本人と話をしながら案内することになると思われる。		
187	ブルーシート1枚に1世帯が入るのか。またあとから来た家族をできるだけ合流させたい。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
188	避難所開設（避難スペースの設置・収容人数）	体育館に避難できる人数が少ないため、家族などは一緒のスペースにいていただくよう協力をお願いしたほうがよい。	今年度より区画の表示方法をブルーシートに変更しましたが、スムーズに設置できた一方で、複数人数で避難してきた場合の対応方法について、様々な御意見をいただきました。 災害時においても複数人での避難が想定されるため、今後、よりスムーズな案内方法を検討します。 感染症考慮時の収容人数については、これまで使用していなかった教室等の使用も想定しているため、一部の避難所において、通常時より収容人数が多くなっています。訓練で実際にブルーシートを敷いて確認した実測値の御意見を踏まえ、今後の方針を検討します。
189		家族でのまとまった避難スペースの確保、幼児・児童がいる家族の壁側スペースの利用など、利用者に一定の配慮ができるよう受付で十分な聞き取りを行い、配置する方法等について協議した。	
190		一般者避難スペースでは、家族どおしでまとまって過ごせるような工夫が必要である。	
191		実際に避難をした場合、家族は家族単位で固まりたいとの要望が出ると思われる。一人1シートで、家族を横に並ばせるよりは、家族を固まりとしたほうがよい。	
192		シートは一人一枚利用か、確認有り。家族（子供と親）等で、1シートで複数名利用する場合について、マニュアルに記載するとわかりやすいと思う。（番号も2-1、2-2等の記載。）	
193		ブルーシートの使用人数について何人までか明記してほしい	
194		確認だが、ブルーシート1枚につき、避難者1人で間違いはないか。	
195		1枚を何人で使うのか明確にすべき、子どもの場合も明確にすべきとの意見がありました。	
196		収容人数を超えた場合の対応のルールはどうなっているか。	
197		計画上の収容人数の中に、要配慮者（要支援者）も含まれているのか？また、●●小の地域で要配慮者（要支援者）がどのくらいいるのか把握しているのか？などの質問がありました。	
198		風水害時、体育館に収容できる人数は限られており、すぐに満杯となる。校舎内の諸室も一般の避難者が避難することになるので、要配慮者、発熱者だけでなく、一般の方の利用スペースもあらかじめ想定しておく必要がある。	
199		体育館が満員になったら、空き教室にもレジャーシートを敷くのか。	
200		レジャーシートでの設置の方が簡単なうえ区画が分かりやすい。レジャーシート1枚につき1人となっているが、乳幼児等は親と一緒に必要があり何歳児から1枚のレジャーシートを利用するか。家族が遠くならないよう番号の振り方を一方向ではなく行って戻ってを繰り返し番号をふる。	
201		8×8の64区画では、区画が少なすぎる。他の教室の開放も検討した方がよい。隣との間隔が横が1mで縦が10cmだが、入り口からの動線を考えると縦が1mで横が10cmの方が移動しやすい。	
202		避難所担当者が体育館にあらかじめブルーシートを敷いて区画整理するのは時間的・人力的に現実的でない。受付で付番したブルーシートとネックストラップを避難者へ渡し、避難者自身でブルーシートを設置してもらうのはどうか。	
203		ブルーシートの配置は案内の際の動線を考慮した方がよい。（間隔の広い部分を動線に取る。）	
204		避難スペース内に通路が必要であることから、舞台に向かって中央部分に通路を設けることとした。	
205		レジャーシートの設置は容易だが、そもそも、大人数が避難した場合、体育館だけでは賅いきれないとの意見があった。	
206		レジャーシートで距離をとりすぎるので、例えば、風水害で避難者が殺到した場合、必ず不満が出るのでは。体育館2F部分も使用する必要があると考えられる。	
207		感染症対策としてレジャーシートを用いて離隔をとった避難所スペースを確保するというのは分かるが、発災時にはそのような悠長なことは言ってもらえないので、この訓練が有意義かは疑問である。	
208		倉庫内のテントはどのような使用用途か。⇒授乳室等としての使用を想定と説明。市のテント様の2m×2mのテントを地区協でも12張保管している（今後数を増やしていく予定）。有効な活用方法を検討してほしい。	
209	今回は、前回設置したテントやベットの設置は行わなかったが、実際にはどこでどのように使用するのか。（→テントは、体育館などで着替えなどする場合に使用することになると思う。ベットは要配慮者避難場所や体育館などで、必要に応じて使用。避難所スタッフと相談して設置することになると思われる）		
210	体育館の収容人数では、到底避難しきれないため、校庭の活用（テント等）を検討する必要があるのでは。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
211	避難所開設（避難スペース）の設置・収容人数	地区協議会で購入した簡易テントが12セットある。避難所開設の時にこのようなテントがあれば、校庭などで使えば密がさけられるのではないか。	今年度より区画の表示方法をブルーシートに変更しましたが、スムーズに設置できた一方で、複数人数で避難してきた場合の対応方法について、様々な御意見をいただきました。災害時においても複数人での避難が想定されるため、今後、よりスムーズな案内方法を検討します。感染症考慮時の収容人数については、これまで使用していなかった教室等の使用も想定しているため、一部の避難所において、通常時より収容人数が多くなっています。訓練で実際にブルーシートを敷いて確認した実測値の御意見を踏まえ、今後の方針を検討します。
212		避難者が持参した簡易テント等を使用して校庭に避難することはできるか？また、自家用車内で避難（駐車場避難）できるスペースがあるかというのでは？	
213		体育館（避難スペース）の収容人数を超えた場合について。①校庭の活用（テント、サンシェード等を使用）を検討する必要がある。②校舎内に他の避難スペースの確保ができるかどうかの再検討が必要。	
214		車で避難してきた人の案内をどのようにするのか示してください。避難所ごとの判断にせず市としての考えを示してください。	
215		車で避難してきた人の駐車場をどうするのかという質問が市民参加者からあがった。通常の避難所は車で避難を受け入れないという前提だと思うが、そうした場合にどのように対応するのか等、マニュアルに記載するとともに、市民への周知をしてほしい。	
216		実際に避難所開設した時には、初動要員・避難所担当職員・お手伝いして下さる市民の方等の休憩スペース・休憩時間・ローテーションのマネジメントも重要になってくると感じました。	
217		感染症対策を踏まえて避難所を開設するには、通常時以上に人員が必要と思われる。実際に避難所を開設する際に、何人の初動要員等が参集すれば開設可能なのかなど、最低人員の基準があった方が良く思う。	
218		レジャーシートが滑る。	
219		レジャーシートが滑るので退避者が転ばないように注意が必要である。	
220		シートの色とシートに貼るテープの色が同色で分かりにくい。	
221		ただ、今回はシートの色が青であり、また使用した養生テープの色が青、ペンが黒でもあり、番号が見つらなかった。テープの色やペンの色、番号の設置方法等を見やすいものにするより分かり易い。	
222		レジャーシートの色（青）とテープの色（青）が同じなので、色を変えた方がいい。テープの色（青）にマジックの色（黒）が見にくかった。マジックの色は赤などに変えた方がいい。	
223		避難者の仕切りについて、レジャーシートとテープの色が同じなので、色を変えた方がいい。	
224		マジックの色は赤などに変えた方がいい。	
225		体育館のシート図面や校舎内の案内図を掲げる。	
226		避難スペースにおけるレジャーシートの配置図があると、受付後に案内せずに避難者自身が付番された番号を確認して行くことができるのではないかと意見がありました。（スペースが限られているので、あらかじめ作成しておくことは可能ではないか）	
227		レジャーシートの配置図があると、受付後、案内がなくても避難者自身が場所を確認して移動できる。（今回の訓練で配置がわかったのであらかじめ作成してもいいかもしれない。）	
228		事前に区画番号を振った大きな図の掲示が欲しい。	
229		①あらかじめ目安となる区画割の印を付しておけば、シート設置作業が容易になるのではないか。（区画割の方法からレジャーシートに代わった経緯は伝えた。）	
230		説明の掲示は大きく掲示しないと周知が図れない。配ってほしい。	
231		避難場所に掲示する注意事項が小さいため、大きいのを掲示したうえで避難所名簿等を配布する際に一緒に配布してもいいのでは。避難者区画シートを使い、番号を消していくなど受付番号が重複しないようにする。また、入り口付近に何番がどの位置にあるか掲示することで一度その場を離れて戻ってきた際に分かりやすくする。	
232		避難スペースの区画番号の付番について、番号より座標の方が分かりやすい。（例：A列1，2・・・，B列1，2・・・）	
233		テープに番号を記入しても遠くから見えずに案内もしにくい。あらかじめ番号カードを用意しておくほうがよい。	
234	番号を表示した養生テープは、手前に貼付したほうが確認しやすいのではないか。		
235	シートの配列や番号はわかりやすく掲示するか、印刷物を配布したほうがよい。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等	
236	避難所開設（避難スペースの設置・収容人数）	養生テープに番号を記入する方法は、手間がかかるしわかりにくい。あらかじめ、パウチした番号カードを用意してください。	今年度より区画の表示方法をブルーシートに変更しましたが、スムーズに設置できた一方で、複数人数で避難してきた場合の対応方法について、様々な御意見をいただきました。 災害時においても複数人での避難が想定されるため、今後、よりスムーズな案内方法を検討します。 感染症考慮時の収容人数については、これまで使用していなかった教室等の使用も想定しているため、一部の避難所において、通常時より収容人数が多くなっています。訓練で実際にブルーシートを敷いて確認した実測値の御意見を踏まえ、今後の方針を検討します。	
237		避難所の開設準備をしている中、避難者が大挙してきた場合の対応については、準備中であることを案内する人や看板が必要でないか。門は開錠して状態で避難所には入れないという状況を想定して雨をしのげる待機場所を検討する必要がある。		
238		要領の記載どおりにレジャーシートを設置すると中途半端になってしまったこともあり、避難スペースの周囲を一律2メートルとするより、少し狭めて1列追加できるのであれば、スペースの確保を優先すべきである。※他の避難所担当職員の話では、ブルーシートの大きさが1.6mだったとの声もある。●●小ではブルーシートの大きさは確認していないが、改修工事用の図面でチェックした最大設置可能の区画数で配置したが、かなり余裕ができたのでその可能性あり。		
239		シートの大きさが表記より小さかった（実質1.6m×1.6m程度）。		
240		レジャーシートを実際に測ったら1.6m×1.6mしかなかった。		
241		●●学校の様子も見に行ったが、向こうのシートは2m×2mあった。		
242		発災後、開設まで時間が必要であると感じた。開設できると判断する前に、ご近所の方が体育館（避難所）に入ってしまうことも想定され、その後ブルーシートを敷くことができるか。学校のように空き教室はないため、混雑が推測される。とりあえず、安全にお待ちいただくところもない。どのように運営すべきか地域住民の方との共通理解が難しいのではないかと。ブルーシートは、外袋に1.8m四方の表記があったが、実際には1.6m四方で小さかった。1.6m四方のシートで64枚しか敷くことができず、2m四方だと当然、枚数は少なくなる。1.6m四方で運営していくのか？ブルーシートの番号は、らせん状に振っていくほうが良い。		
243		体育館内のルール決め（一方通行・動線が重ならない様な標示等）		
244		シート確保のルールを決める必要がある（乳幼児がいる場合は1枚当たり何人までか。自己判断でよいのか。番号どおり案内すると家族が離れる。後から来る家族の分は確保できないか）など		
245		まずは入り口の一番遠いところから詰めて案内していく方がスムーズであろう。避難が長引くようであれば、段ボールなどで隣の家族と仕切る等の配慮が必要である。		
246		足の悪い方などあらかじめ、シートの条件のいいところを確保するなどの取り扱いの検討を。（福祉避難所までの方ではない場合）		
247		地区協所有のブルーシート（ロールタイプ）を体育館全体に敷いて、土足可としたい。上に敷く市のシートは色を変えてほしい（青以外）。		
248		小学校は椅子が多いため、どれくらいの個数をどの場所にするのか対応が必要である。		
249		年配者が多いので、床に直に座るのは大変。椅子が必要である。		
250		ごみ箱の設置場所は、現在、体育館入口前。においの問題もあるので、設置場所を変えてはどうか。		
251		体育館のトイレの鍵を開けて使えるようにしてほしい。		
252		正門から入校した場合、崩壊の可能性のあるピロティエーを通る必要があるため、総合案内は正門とするに適さない。大型トラックも入れる南門を入口として総合案内を設置したほうが導線を分けやすく、安全との結論に至った。		
253		ペットの避難については、飼っているかいないかでかなり考えが異なる。「人が優先」という基本が守られること、ペットが避難するにはきちんとしたしつけなどの準備が必要であること（同伴でなくてもペットが耐えられること）等、飼い主からの反発があったとしても厳しい周知を行う必要があると感じた。		市ホームページなどにおいてペットの同行避難の留意点について引き続き周知します。また、今年度はペット避難に関する動画作成を予定しており、動画を活用し更なる啓発を進めます。 ペットについては、アレルギー等、他の避難者への配慮が必要であるため、人（避難者）の避難場所への同伴避難ではなく、ペットは専用避難場所へ避難する「同行避難」のみでの受け入れを行います。
254		ペット同行避難について、ケージを準備していないなど飼い主の防災対策へ不安の声が上がっていた。市から継続的に市報等を通じて啓発を行ってほしいとのご意見をいただいた。		
255		同行避難に加え、家族の一員であるとの観点から、同伴避難について検討の必要性を求める意見があった一方、地域の方には、統一的に置き去りにすべきだと強く主張する方もいらした。同行避難までが、市の統一見解であることを、より広く理解の深化につなげられるよう広報活動に課題があると感じた。		

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
256	ペットの同行避難	同行避難に加え、家族の一員であるとの観点から、同伴避難について検討の必要性を求める意見があった一方、地域の方には、統一的に置き去りにすべきだと強く主張する方もいた。	市ホームページなどにおいてペットの同行避難の留意点について引き続き周知します。また、今年度はペット避難に関する動画作成を予定しており、動画を活用し更なる啓発を進めます。ペットについては、アレルギー等、他の避難者への配慮が必要であるため、人（避難者）の避難場所への同伴避難ではなく、ペットは専用避難場所へ避難する「同行避難」のみでの受け入れを行います。
257		ペットの避難場所を室内にしているかどうかという意見もあったが、再開時の問題、衛生面、動物アレルギー等課題が多い。	
258		プールの更衣室がいっぱいになったときの場所が教室となっているので、若干懸念がある。	
259		現状では1Fのユーフォールームとしているが、この部屋は総合受付近くの場所で発熱者や要配慮者で異動が困難な方が利用しやすい場所にある。避難所の場所との関係やペットの避難状況にもよるが、他の場所（プールの更衣室など）の活用も検討しては。	
260		地域の方からも意見があり、引き続き、近隣自治体などを参考に検討すべきである。	
261		ペット避難場所（プール更衣室）の開錠を依頼していなかったため、中の確認ができなかった。次回注意。	
262		例えばニシキヘビも受け付けるのか、その場で許諾を判断するのは困難である。	
263		ペットについてですが、現在様々なペットを飼っている人がおり、その飼い方も様々であるので、どんなペットまで受け入れが可能なのか。	
264	ペットの種類を決めておいた方がいい。		
265	避難所受付訓練	事前配付資料P28の受付設置イメージは、A4程度に大きくしたものをパウチ加工して防災備蓄倉庫に入れてください。なお、各受付ごとに必要です。	受付の設置方法や配布物、資機材等について、今回いただいた意見を踏まえて検討して参ります。また、各学校の受付設置場所等については、訓練等を通じて、出された課題を踏まえ、避難所利用計画を更新するなど、改善について検討します。
266		受付の設置をする際に、設置イメージの写真が有効であった。誰が準備しても効率的に設置できるように、マニュアルへの記載だけでなくパウチしたA4程の写真を準備しておいてほしい。	
267		ナンバリングかつパウチされたものを一般避難者の受付に設置した方が案内しやすいため、防災備蓄倉庫に置いてください（配付資料P27のイメージ）。	
268		QRコードの必要性が不透明。また、受付は並ぶので、ペーパーを渡し、あとで、職員が回収に回るのはいいと思うとのこと。	
269		受付スペースにおいて、QRコードの使い方がよくわからない。どの避難所に避難しているかを確認するために、QRコードを使用するならば、意味があるが、避難所の人数を確認するために、避難者に手間をかけさせるということだと、違うのでは。	
270		QRコードの書類は混乱するのでなくてよいと思う。	
271		受付場所について案内所を通らないで避難所に来る方があることを想定しておくべきである。	
272		避難者が勝手に来てしまった時の対応をどうするのか、といった意見があった。	
273		一般受付でも避難者が滞留することが想定される。家族単位での避難者や単身での避難者など振り分けを行い、受付を複数個所設けるとよいのではないかと。※ただし、その場合、避難者名簿や避難区画の割振りなども踏まえた管理が必要になる。	
274		改めて動線も考慮して、総合受付の場所の変更を確認（よりわかりやすく）。	
275		計画上である正門ではなく西門を受け入れ門とし案内所を西門付近に移す。	
276	総合受付は、転校と動線を考え昇降口の中に設置した方が使いやすいと思う。		
277	総合案内での整理（振り分け）がかなり重要。		
278	総合案内と避難所受付の両方で検温を行うのは非効率。また、受付で待つのではなく、並んでいる人に検温や消毒をどんどん行い、行列を作らない工夫が必要。⇒総合案内は案内のみで検温は行わない想定と説明。		
279	一旦避難したのち、帰宅等する人もいると思う。職員、避難者双方が避難スペースの番号を一目で確認できるよう、ネックストラップで番号をわかるようにしたほうが良い。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
280	避難所受付訓練	その際、東門は車の乗り入れなども想定されることから絶対あけない。	受付の設置方法や配布物、資機材等について、今回いただいた意見を踏まえて検討して参ります。 また、各学校の受付設置場所等については、訓練等を通じて、出された課題を踏まえ、避難所利用計画を更新するなど、改善について検討します。
281		今回の訓練では、一般避難者の受付訓練のみを行ったため、住民の方から総合受付は別ということでもいいかの確認があった。訓練時間に多少の余裕があったことから、次回は総合受付の訓練を加えてもいいのではないかと思われた。	
282		健康チェックシートは受付で渡さずに避難者名簿提出時に人数分を渡すようにしてはどうか。受付での案内内容が多すぎる。	
283	通信訓練	●●学校は防災行政無線の疎通が非常に悪いようです。高い確率で携帯電話などに切り替えて所要の報告しているようです。設置場所の変更を検討したほうが良いです。使用できない・しずらい状況は効果も少なく非常時に新たな手間が生じてしまいます。	電波強度について確認し、設置場所の変更を検討します。
284		訓練終了の防災行政無線が10分以上つながらなかった。毎回のことが、スムーズにつながる方法にしてほしい。	防災行政無線の使用方法を習得することも実施目的に含まれていることから、終了報告以外における訓練内容について検討します。
285		最大人数を超えたときは、無線で本部とやり取りをしながら他の教室利用もありではないか。	避難所利用計画で色がついている教室が満員になった場合は、白塗りで斜線が引かれていない教室を順次避難所として利用していくこととなります。 避難所自体が満員となった場合は、その時の天候の状況等も考慮し、避難所運営本部と協議した上で、対応を決定することを想定しています。
286		初動職員や避難所担当対応職員間での意思疎通・情報共有・出欠確認等を行うためにも、LINE WORKSやチャット機能のあるアプリなどを活用していくことは必須に感じられる。アプリについては避難所単位は勿論、本部と避難所・従事職員全員をつなぐツールとしても有用であると考えられる。	他自治体の状況等を参考にしつつ、検討します。
287	防災備蓄倉庫（備蓄品・掲示物等を含む）	防災倉庫、NO.38の扉の内側に添付されている備蓄品一覧表（R3.6.22現在）をラミネートにし文字も大きくしてもらいたい。また、NO.12には古い（R3.3.5現在）備蓄品一覧表しかなかったため、最新（R3.6.22現在）のラミネートの一覧表を設置してもらいたい。また、設置するラミネートの一覧表に倉庫番号（NO.12とNO.38）を表記してもらいたい。	防災備蓄倉庫内の配置図については、原則、新しい備蓄品や資機材を格納する際に更新しています。 防災備蓄倉庫の設置場所、倉庫内の物品の配置等については、各学校ごとに状況が異なるため、訓練等を通じて職員が確実に把握するとともに、地域の方と共有することで、避難所開設時に円滑に対応できるよう努めます。
288		備蓄庫の中身の表示が小さすぎて見にくい。内容別に色分けするなどの工夫もほしい。	
289		防災倉庫に入っている備品について、扉の内側に写真と一覧が貼ってあるが、どの備品がどの倉庫に入っているのか、他の倉庫の備品についても貼っていただきたい。●●学校には防災倉庫が3か所あり、それぞれ場所が離れているため、備品の保管場所がわからないと迅速な対応が難しい。	
290		備蓄品の内容は見たことがない人が大多数と考えられる。備蓄品の内容はネットに掲載しておけばよいのではないか。	
291		備蓄倉庫が市の備蓄と共有であるため、施設の備品を明確にする必要がある。施設の備品は、学校の場合はその学校で使用するものであろうが、個々に「大町スポーツ施設」の表記が必要と感じた。地域の方は、倉庫内のもは当然この施設の備蓄品と理解されていた。明確に明示しておかないと特に停電時などは区別がつかない。地域の方が市の備蓄品を使用してしまうことが想定される。発災の混乱時には、倉庫に積み上げられたアルファ米の箱などが崩れると感じた方が多かった。停電時のシャッターの1の使用が可能か？シャッターわきのゴミの山を見て地域の方は驚かされていた。	
292		A3版の説明表示が入っていなかった。	
293		全員で備蓄品を一品ごとに確認すると、訓練の参加者がどういった備蓄品が備蓄倉庫にあるか分かり災害時に役立つというメリットがあるが、訓練時間が長くなってしまう。備蓄品の写真付きの一覧表を全員に配布してどういった備蓄品があるか確認した後に、何人かで手分けして確認すれば、訓練時間が短縮になり効率良く訓練を実施することができる。	
294		防災教育の日は地域の方と協働できる訓練として貴重な時間となります。防災備蓄倉庫の中身については、この日に職員・地域お互いに全てチェックし、何がどこに入っているかを確認したほうが良いと思います。そしてこれは訓練の最終項目で行うことが望ましいです。訓練を挟むとその片付けで、保管場所などが変わります。	

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
295	防災備蓄倉庫（備蓄品・揭示物等を含む）	9:55に防災備蓄倉庫の避難所開設機材を確認する訓練を実施し、11:15に防災備蓄倉庫の備蓄品の確認・取り出しの訓練があった。2つの訓練を続けて効率的に実施することにより訓練時間が短縮する。	防災備蓄倉庫内の配置図については、原則、新しい備蓄品や資機材を格納する際に更新しています。 防災備蓄倉庫の設置場所、倉庫内の物品の配置等については、各学校ごとに状況が異なるため、訓練等を通じて職員が確実に把握するとともに、地域の方と共有することで、避難所開設時に円滑に対応できるよう努めます。
296		防災倉庫について、特に夜間等は懐中電灯等の捜索ももどかしい状況にあることから、予算の関係もあるだろうが、扉を開けたら自動的に点灯するような形にできないか検討してほしい、との意見が出された。	避難所運営における備蓄品については、予算の範囲内で優先順位の高いものから順次導入しています。数量や使い勝手について充足できていない場合もありますが、各避難所においては、限られた資機材の中で運用することとなります。備蓄品の新規購入に際しては訓練を通じて出された意見等を参考に検討します。
297		夜間の時の実際は、やってみないとわからない。明かりの確保が第一に出来るようにしておきたい。一覧表との整合性にずれがあり、倉庫の中身が探しにくかった。名称と位置関係の整理が必要だろう。一度、時間をかけて倉庫内の整理を確認する機会が必要ではないだろうか。	
298		地域の方から、太陽光などを利用した蓄電機器を利用して、備蓄倉庫内を常時点灯させられるようにしてほしいとの意見がありました。夜間等にも活用でき、設置も安価ではないかとのことです。	
299		倉庫内が暗いので、照明を増設できないか？	
300		暗い時のライトの用意を優先して出来るようにしたい。	
301		古い方の備蓄庫の扉が歪んでおり、扉上部から雨水が入り、備蓄米の段ボールが濡れてしまっている。段ボールはビニールがコーティングされている仕様だが、食料なので衛生面でも心配とのこと。扉の修繕を願いたい。	
302		学校から、防災備蓄倉庫（古いほう）の扉がゆがんで完全に閉まらないので修理をお願いしたい、との申告があった。	
303		扉付近が土があり、開きづらかった。扉付近はコンクリートのほうがいいのでは。	
304		倉庫入口脇にある非常電源の利用方法について、教えて欲しい旨の要望がありました。	
305		備蓄倉庫と体育館の距離が遠すぎて物品の移動が困難。備蓄倉庫の位置の再検討を要する。特に雨や雪の日には移動がとても困難である。	
306		備蓄倉庫は避難場所の近くが望ましい。	
307		荒天の時、備蓄倉庫からの運搬が心配。	
308		防災備蓄倉庫にあるラックが、震災で倒れる恐れがあるのでは。物資の散乱を防ぐため、ラックを倉庫の壁に金具で固定し、食料はテープやロープで固定すると良い。	
309		防災倉庫のコンテナの積み方について。避難所開設資機材が重いのか最下段にあるが、建物チェックする用具などは最初に使用するので一番出しやすい位置にあるべき。また、避難所開設資機材のコンテナは内容を詰め過ぎていて蓋が閉まるギリギリの分量であったため、コンテナを分ける等対処が必要。	
310		一部の備蓄品は体育館内に保管できないか	
311		防災倉庫が2か所あるが、倉庫の形状から、その中身を入れ替えることが望ましい	
312		現在、2か所の倉庫の内容物一覧が倉庫ごとではないことから、倉庫ごとへの変更をお願いしたい。	
313		レジャーシートの設置時は、指サックなどが必要である。	
314		備蓄品に追加した方がよいもの。①レインコート（避難時は晴天でも、長期化すると雨天作業が必要かも。）②家庭用工具（ドライバー、ペンチ等 応急給水作業の際、用具の蓋が固く開けるのに苦慮した。）	確認、点検等が必要なものについては、現地にて行います。また、新規備蓄品等の購入については防災備蓄倉庫のスペースに限りがあること等を踏まえ検討します。
315		防災倉庫に雨対策にレインコート、また、作業をするときにドライバーやペンチなどの工具も用意して欲しい。	
316		防災備蓄倉庫の中の懐中電灯が壊れている。	
317		地区協会で体育館に敷ける大きくて厚いブルーシートがある。市のブルーシートは薄い。厚いブルーシートの上に違う色のブルーシートがあれば、座っていてもいたくないのでは。	

番号	項目	意見等	検討の方向性等
318	防災備蓄倉庫（備蓄品・掲示物等を含む）	ブルーシート、養生テープ、マジックをセットにして保管されているとよりスムーズに設置できる。	確認、点検等が必要なものについては、現地にて行います。また、新規備蓄品等の購入については防災備蓄倉庫のスペースに限りがあること等を踏まえ検討します。
319		準備してあった養生テープが少ないため、効率的にシートの設置ができなかった。	
320		養生テープ・太いマジックが不足しています。黒・赤・青の油性ペンが多く必要。現在の数量では足りません。また、避難者への周知案内をするための模造紙大の紙も必要です。	
321		マジック、養生テープが不足している。もっとたくさん準備しておいてほしい。	
322		数字を書くマジックが見当たらなかった。	
323		大雨、洪水時など風水害時は、傘や雨具、レインブーツなどを持参する避難者が多いので、靴袋や傘袋を用意して備蓄倉庫に入れておく必要がある。	
324		体育館で脱いだ靴はどうするのか。袋が必要。	
325		雨で濡れたものを入れる大きな袋が必要。	
326		外履きを入れるビニール袋、傘を入れるビニール袋がほしい。	
327		倉庫について、建物調査をまず初めに行うことから、そのための備品等を取りやすいところに配置すべき。	
328		倉庫の中身が探しにくかった。名称と位置、一覧表との整合性を一致させたい。場所のABCは良くわからない。倉庫は、一度出して自分たちで入れる機会があると良い。	
329		地域の方から以下の要望があった。 防災倉庫が経年劣化しており、外側から確認し防災倉庫（NO.12）の床付近に穴が開いている。防災倉庫（NO.12）内にネズミの糞が多数散乱していた。補修及び清掃をお願いします。	
330		防災備蓄倉庫No12のネズミ被害については、衛生上の問題からも早急に対応すべき。侵入経路の修繕や現在の備蓄品の入替など対応して速やかに地域へ報告をお願いしたい。昨年度の報告でも上がっていた内容であり、地域からは建て替えてほしいとの意見もあったため、今年度中に要対応。※建て替えるのであれば扉の向きをNo38と合わせたいとのこと。	
331		多摩川が近いため水害時には当小学校は避難所にならないが、防災備蓄倉庫が浸水するのはやむを得ないと想定で作られていると防災担当の職員から聞いた。しかし、水害時に浸水するのはもったいないので、やぐらを組んで倉庫ごと上に乗せるなど、かさ上げをすべきである。市内で浸水が想定される学校は全て同様。経費も掛かるため1台ずつでも良いので、計画的なかさ上げを検討すべきである。	
332		防災備蓄倉庫が2カ所ある。プール横の防災備蓄倉庫には大きな荷物が入っている。男性が持って来るのも大変である。台車か一輪車があった方がよい。	
333		荒天の時に備蓄品を濡らさずに体育館まで運搬できるか不安という意見が多数あった。避難所開設時は少人数での作業が想定されるため、今後の検討課題とした。	
334		●●学校の体育館には防災倉庫があるのだから、体育館で使用する防災物資はここに格納したほうが良い。現在は校庭の隅にある防災倉庫にブルーシート等が格納されており、運搬に時間がかかる。	
335		体温計の電池、水質検査キット、その他不足している物品があった。また、避難者名簿をファイルにつづるときの穴あけパンチがあるとよい。	
336		不足している備蓄品があるので、定期的な確認業務が必要である。	
337		車いすはあるのか。	
338	車イスやストレッチャーの場所の確認が必要。		
339	避難所開設時は混乱するため、なるべく人手がなくても対応できるように、掲示物等はあらかじめ備えておく。また、各場所（受付等）でやることなども物品と一緒に入っていると、指示がなくても自主的に対応できるようになると考える。		
340	限られた人員の中で運営するためには、効率的に進めないといけない。校内に掲示物をはることやロープを張るなどして、避難誘導などにかかしていきたくので、掲示物やロープなども備蓄倉庫に入れて欲しい。実際の避難では、校内放送も有効な情報伝達手段なので、操作方法を知りたい。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等	
341	防災備蓄倉庫（備蓄品・掲示物等を含む）	校舎がないため、仕方がないが、総合案内が外で3箇所の門から入ってきた接点の通路となつているため、避難者が少人数であれば良いが、大勢の方が非難されてきたときに混乱が推測される。総合案内が、非常に避難者からわかりにくい。大きな表示やテントなど工夫が必要。掲示物はパウチされているのは良いが、字が小さくて目につきにくい。ピクトグラムや色分けをすることでわかりやすくなるか。注意書きは、配布したほうがよい。	確認、点検等が必要なものについては、現地にて行います。また、新規備蓄品等の購入については防災備蓄倉庫のスペースに限りがあること等を踏まえ検討します。	
342		トイレの表示数は、大きく2種類必要であると感じた。①トイレがどこにあるのかを示す場所用の表示、②トイレ使用に係る注意書き等の表示である。特に②はトイレ数必要となるため、準備は大変だと思いますが、あるとよいという意見が多かった。		
343		「トイレをきれいに使いましょう」のポスターはたくさんあった方がよい。パッと見て目に入るデザインにしたほうがよい。		
344		正門、東門、西門に、避難所の入口や避難の案内などの情報を記載した案内版を直ちに掲げる。		
345		校門を開錠した状態で避難所の開設準備を行うことになると思うが、避難者が次々来てしまった場合の対応について、準備中である旨をお知らせする看板や現状を案内する人など、混乱が生じないように工夫を考えておく必要があるという意見が地域の方から出た。		
346		レジャーシート番号の見取り図を掲示できるとよい。		
347		体育館のシートは、案内図を壁に掲示できると良い		
348		地域の方から以下の要望があった。 南門は開けないので「車は中には入れない」旨のラミネート表示を作ってもらいたい。		
349		台風の際、車で避難する人がいる。車両進入禁止の大看板が必要。		
350		体育館利用者、発熱者、要配慮者に向けた利用案内（簡単なチラシ）があるとよい。待っている間、安心する。外国語バージョンも必要。		
351		風水害対応として防災備蓄品一覧のラミネート加工（高齢者も多いためA3サイズ必須）、車避難者へのアナウンス看板、ベトナム同行者向けの校門掲示アナウンス看板等、実情に合わせた用品の準備をお願いしたい。また、学校平面図も発災時に限られたスタッフで運営を担う以上は避難者のスムーズな誘導のためにも常に最新の状態で提供いただくようお願いしたい。		
352		マニュアル・説明会資料は内容が充実しており、訓練時に迷うことが少なかった。発災時にも利用することになるため、引き続きの充実を求める。		今年度の訓練で使用した、避難所利用計画図については、令和元年台風19号における避難所開設時の課題や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設に備え、令和2年8月に市が暫定的に作成したものです。このため、今年度の訓練内容や現在の避難所運営に関する考え方や、地域・市・学校が協働により作成した、各学校の「避難所運営マニュアル」の内容が異なっている状況にあります。今後、現状の課題である、風水害や感染症対策を踏まえたうえで、各学校の「避難所運営マニュアル」の見直しを検討する必要がありますが、見直しに当たっては、今年度の訓練を通じていただいた御意見等を踏まえ、ガイドラインの修正を行うとともに、地区協議会の皆様と協働により取り組んでいくことを予定しています。
353		今回の訓練を通じて、地域の方は市に対してかなり不信感があると感じた。（以前からあるのではないか）。事前説明会の顔合わせでの第一声が「地域で作った計画を無視している」「全て市が決めるのであれば、地域は必要ない。地域住民を運営のコマくらいにしか考えていないのでは」「事前に訓練内容を市と地域が相談できないのか」など。		
354		市に対する不満を挙げられ、訓練当日も同様の意見があった。地域の方の「市は地域の計画を無視している」との意見には、正直、地域に対し事前に説明があれば少しは理解が得られたと感じる。関係改善がなければ、結果、市職員との連携や避難所運営に支障が生じるため、速やかな関係改善に向け、市（教育委員会や防災課）は積極的に地域へ働きかけ、計画の見直しをサポートするなど、地域に寄り添う対応を求める。		
355	避難所運営マニュアルとの乖離はどうするのか。地域の方は避難所運営マニュアルの内容を前提としているため、すみやかに情報共有・検討・マニュアルの更新が必要。また、地域のイベント等を通じて検討状況を周知できるので、そのような機会を積極的に活用してほしい。			
356	訓練で確認できた避難所運営マニュアルとの乖離をどう整理するのか。また、その検討状況について知る機会を設けて欲しい。			
357	避難所マニュアルを作っているが、今日の訓練の内容（コロナ対応）が反映されていない。			
358	非常に大きなテーマになるということを認識された上での一部地域の方からの御意見ですが、現在の各学校の避難所マニュアルは、コロナ前のものであり、今回の訓練内容とは大きく異なっていることから、コロナ用のマニュアルをそれぞれ作成する必要があるのではないかと至極真つ当なご意見をいただいた。各学校毎の現在のマニュアルを揃えるのに相当ハードルが高かったということは漏れ聞こえておりますが、ここをどうするか、改めて検討する必要があると感じた。			

番号	項目	意見等	検討の方向性等
359	マニュアル	せせらぎという場所は、管理は学校で緊急時は対策本部として使用することになっているにも関わらず、地域住民に配布されているマニュアルを無視している。	今年度の訓練で使用した、避難所利用計画図については、令和元年台風19号における避難所開設時の課題や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所開設に備え、令和2年8月に市が暫定的に作成したものです。このため、今年度の訓練内容や現在の避難所運営に関する考え方と、地域・市・学校が協働により作成した、各学校の「避難所運営マニュアル」の内容が異なっている状況にあります。今後、現状の課題である、風水害や感染症対策を踏まえたうえで、各学校の「避難所運営マニュアル」の見直しを検討する必要がありますが、見直しに当たっては、今年度の訓練を通じていただいた御意見等を踏まえ、ガイドラインの修正を行うとともに、地区協議会の皆様と協働により取り組んでいくことを予定しています。
360		総合防災課にも地域のマニュアルを提出しているのに、すべて無視している。	
361		発災時の状況を想定した計画にしておかないと意味が無い。	
362		避難所運営マニュアルとの乖離が大きいことについて、多くの意見と懸念が出されました。実際、各避難場所予定地が、避難所運営マニュアル上では物資受付場所・死体安置場所・救護所となっています。また、校舎の状況についても、建設・取壊のあった、または予定されているものもあります。地域の方は避難所運営マニュアルが前提となっているため、開設時に混乱をするのではないかと懸念が意見交換の場で見られました。速やかにマニュアルの更新が急務であり、時点更新であっても、できることから速やかに着手すべきと考えます。	
363		今回の訓練では、●●計画が反映されていない。計画は市（防災課）にも提出しているにもかかわらず、事前の相談もなく避難所利用計画を変更している。やり方が乱暴である。感染症をふまえ変更が必要なら、もっと早く地域に情報提供すべきであり、このようなやり方では地域は協力できない。今後、早急に計画の検討について市の姿勢を示してほしい。（説明や検討の場を設けるなど）	
364		学校ごとのマニュアルが現状であったものになると良い。また、利用計画図だけでも現状であったものにした方が良い。●●学校においては、毎年、各クラスの教室が変更したりすることによって、利用計画図とあっていない場所もあった。利用計画図上、机等置いていない教室等の表記があると意見交換時にさらに有効なものとなると思った。	
365		マニュアルに表記されている校舎利用計画図と図上訓練で利用したA0版の校舎利用計画図に違いがありました。	
366		マニュアルを学校ごとに分ける必要はなく、マニュアルは共通化して、各学校に特徴的な部分、例えば、図面などについて、別紙で用意するなどのほうがよいのではないか、との意見があった。	
367		マニュアルが、●●学校と一緒にしているが、●●学校との連携がどのようになるのか明確な記載がない。発熱者を大町スポーツ施設から●●学校に案内することや備品など、実情と合っていない部分があり、いざというときに役に立たないのではないかとと思われる。随時更新が急務。大町スポーツ施設は、学校とは異なることも多く、独自のものも必要ではないか。応急給水栓の設置方法等のマニュアルはあったが、設置をする基準が必要と思われる。	
368		地域住民から「マニュアルを作るなら、各施設毎に必要なだと思う。特に●●学校は設備が特殊なので検討事項が多いと思う。」といった意見がありました。	
369		避難者の受け入れ可能人数について。被災時は体育館だけではなくすぐに受け入れができなくなってしまう。第二、第三の避難場所の確保が必須。校庭が一番広いが、その運用方法について、ハッキリとしたマニュアル整備を求む。	
370		避難所開設時に必要な鍵は一式備蓄する必要がある。体育館は複数個所鍵が合わなかった。プール更衣室は備蓄されていない。	
371		避難所開設時は混乱することが想定されるため、すべてを指示しきれないので、紙にやることなどをまとめて配れるようにしておくとうい。	
372		健康チェックカードは改修するのか自己管理か。マニュアルの更新が必要。	
373		実際に避難所として開設した際に、トランシーバーを活用することになる。そのため、トランシーバーが校内のどこに何台置いてあるのかをあらかじめ避難所マニュアルに記載があるとよいと思う。	
374		各受付ごとに適切な内容を入れた運営マニュアルが必要。 1 写真（パウチ）のように受付をセッティングする 2 セッティング完了報告をトランシーバーで行う 3 避難者の受付を開始 ①検温・種子消毒を依頼 ②避難者数を聞く ③人数分のシートを割り当て ④避難者名簿の受付番号欄にシート番号（●番～▲番）を記入 ⑤避難者名簿を代表者に渡す。提出は後程してもらうことを伝える ⑥シートに案内する係につなぐ	

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
375	マニュアル	避難所運営マニュアルの更新の所管はどこか（→教育部に本件を報告するが総合防災安全課で検討することになるかと思うと回答。）	平成24年3月に市が策定した「避難所運営マニュアル作成のためのガイドライン」を基に各地域、市、学校において協働で作成した避難所運営マニュアルに基づき、地域においては訓練や災害シミュレーションを実施していただいているところですが、令和元年台風19号での避難所開設での課題や、国や都から示されている新型コロナウイルス感染症対策を講じた避難所運営の方針を踏まえた内容を追記する必要があったところです。 しかしながら、感染症拡大の状況の中においても、災害発生時には避難所開設の必要があることから、緊急対応として市と学校で感染症対策を講じた避難所利用計画を作成したところでもあります。令和2・3年度と感染症の状況により防災教育の日においては地域の方との訓練を実施することが叶わず、市の考え方をお示しさせていただく機会がありませんでしたが、今年度防災教育の日を通じて訓練実施した内容や当日いただいた御意見を踏まえるとともに、ガイドライン策定から10年が経過し、避難所運営の考え方も変更が生じる部分もあることから、避難所運営マニュアル作成のためのガイドラインの修正を行う必要があると考えています。今後、ガイドラインの修正について地域の皆様から意見を頂きながら進めていくとともに、協働する訓練について継続して参ります。
376		市民から、正確な情報を発信すべきだとの意見あり。経緯は、市民から車で避難した場合、どうするのか。原則、駐車できないと回答。ただ、台風19号では、校庭に駐車させた経験ありと説明。それに対して、小学校の駐車ができないことから、他のスペースを市が準備している。そのことをもっとアナウンスすべきとのこと。	
377		避難所開設時はどのような体制になるのか。命令系統を明確にしておいてもらいたい。	
378	感染症対策	発熱者の対応について、本日は訓練だったので問題はなかったが、実際に避難所を設営したときどうするか、管理者は全体を管理する役目があるので特定の人を決めておく必要がある。防護服等も必要である。	避難所における感染症対策については、東京都の「避難所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に基づき対応しています。 原則、新型コロナウイルスに罹患している方は東京都が管理しており、災害時においては、保健所の指示に従い避難所以外の場所に避難することとなります。 施設や物品の消毒の場所や頻度については、その時の国や都の考え方によって変わることがあることから、開設時の市の施設使用時の対応に準じて行っていただくこととなります。
379		新型コロナウイルス感染者の看護者及び濃厚接触者の避難所での扱いを明確にした方がよい。	
380		リーダーセットに入っていた体温計（非接触型）に電池が入っておらず、結局検温を実施できませんでした。体温計の箱の中やリーダーセットの中に電池を入れておいていただけると助かります。	
381		リーダーセット内にあるはずの、手指消毒液も体温計もなかった。消毒液は物品用消毒液で代用し、体温計は向かいの北部公民館から借りて9:15の健康チェックを済ませた。	
382		学校に自立式の体温計あり。自分で検温する運用にしてはどうか。現状のものは正確に計測できていない（34.0℃の人が多かった）。	
383		体育館で発熱が判明した場合は、近くの入口から校舎に入り2階に行くとうい。	
384		防護服等も必要である。	
385		コロナ禍では、避難所に入る前に総合受付などを設置し、検温や消毒などを行ってから校内に入れるとうい。なお、総合受付前には積極的に声出し、指示出しができる職員の配置が望ましいとの意見があった。	
386		発熱者の受付訓練が必要で、受付後の運営と運営スタッフの安全性が必要。例えば、防護服の代わりにポンチョを使用するとかなど。要配慮者の対応も必要である。	
387		保健室は✕になっているが、怪我人の手当で保健室が使えれば良いと思うとの意見がありました。	
388		保健室は多数の薬品があるため現状では開放不可と認識しているが、いざ本番になり怪我人が避難所に収容された場合には、応急処置ができるように開放することはできないか、検討してほしいとの意見が出された。	
389		体調不良者のためにも、血圧計等、医療機器の案内を定期的に周知する必要がある。長期にわたる避難は、体調不良者も増えてくるため、情報周知の工夫が必要では。	
390	体調や具合の悪い方への対応として、血圧計の準備と声かけが必要である。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
391	感染症対策	コロナの状況が変わった場合どうなるのか。通路は空ける必要があるのか、コロナ対策よりも避難者を優先した方がよい場合もあるのではないかな。	避難所における感染症対策については、東京都の「避難所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に基づき対応しています。原則、新型コロナウイルスに罹患している方は東京都が管理しており、災害時においては、保健所の指示に従い避難所以外の場所に避難することとなります。施設や物品の消毒の場所や頻度については、その時の国や都の考え方によって変わることがあることから、開設時の市の施設使用時の対応に準じて行っていただくこととなります。
392		発熱者の受入基準を設けて欲しい。（二次感染防止の観点から）。	
393		感染症対策を踏まえた訓練としながら、同じことしかしていない。発熱した人の受付対応をする人の安全性を考えることが必要である。	
394		感染症対策を踏まえた避難所運営について、避難所内をシートを使って一定の距離を保つ方法により実施したが、感染症対策に関するフェーズや社会の認識が変化しつつある中で、現実的な対応なのか議論が必要だと思いました。（収容人数が少なすぎる状況となる）	
395		途中で帰った人のシートは返却して消毒するのか。	
396	要配慮者	総合案内で「要配慮者」に振り分けるルールを明示してほしい。要配慮者に同伴できるのは何人か不明。杖をついている高齢者は要配慮者なのか不明。要配慮者で高齢者と乳幼児連れ等一緒の部屋だと授乳やおむつ替え等で問題が生じると思うが、具体的なルールがほしい。	高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、傷病者、内部障害者、難病患者等を要配慮者としています。同伴者の人数についての指定はしておらず、避難所の混雑状況や同伴の必要性を勘案し、御案内することを想定しています。授乳用として簡易テントを備蓄しているほか、要配慮者の属性ごとに部屋を分ける運用を想定しています。
397		各受付（一般・要配慮者等）の名簿をひとまとめにしたとき、受付番号がかぶってしまう。管理はどのようにするのか。受付番号を一般1 要配慮1 発熱1 等にするのか？	
398		避難所利用計画について、避難者は圧倒的に健常者が多いので、総合案内を体育館において、要配慮者は体育館から校舎に流すよう動線を逆にしたらどうかとの意見があった。検討する時間がなかったため、意見として預かった。	
399		車いすの対応は。	
400	様式関係（避難者名簿・健康チェックシート等）	避難者に配付する各種様式は、書類をとりだし読み込まないといけない。書類を入れる封筒にわかりやすく見出しをつけてください。例「様式名称」「1世帯に1枚配付するもの」「記入後に回収してファイルに綴ること」等	いただいた御意見を踏まえ、今後の対応について検討します。
401		名簿の書式を統一したことは良い。	
402		世帯主と家族の記入の仕方が困難。	
403		世帯主が来たときの記入の仕方が、タイミングでどう書けばよいか分からない。	
404		避難者への各種配付用紙は、内容がわかるようにして封筒に入れるなどしてほしい。また、回収した書類の整理用にも封筒などがあつたほうがよい。	
405		新様式の避難者名簿を事前配付してほしい。	
406		キングファイルに綴れるように、避難者名簿にあらかじめ穴あけをお願いします。	
407		昨年度も出ていた意見だが、避難者名簿に穴があけられないのでファイルに挟めない。事前に穴を開けるか、2穴パンチを用意してほしい。	
408		避難者名簿に穴が開いていない。ファイリングするのであれば事前に穴を開けておいた方がよい。	
409		校内でのクラス配置、数は毎年変化し使用可能な場所が不可となっていることもあり、年度で作り直すことが必要である。	
410		避難者名簿の新様式について、いつの時点の様式かを把握するため、欄外に「〇年〇月〇日作成」や「バージョン〇」などの記載が必要である。今後も随時アップデートをされていくため、いつ時点の様式かがわかる運用を求む。	
411	避難者名簿の管理について、避難所においては職員が張り付きで確実に管理されるものと認識しているが、避難所解散後の扱いについて、個人情報につき、どのような形になるのか不安がある。その点も明確にしてほしいとの意見が出された。		

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
412	鍵の開錠等（体育館・校舎・校門等）	校舎を開錠するにはセコムカードが必要だが、避難所担当職員は誰もセコムカードを持っていません。初動要員・用務員等学校職員への配付をお願いします。このことは、令和3年8月にも要望しています。	校舎の鍵（セコムキー含む。）については、防犯上の課題から、鍵の貸与は行わない予定です。有事の際は、学校避難所対応職員による鍵の開錠、または建物利用調査、体育館の避難所開設中に、避難所運営本部職員（教育部）による鍵の開錠を予定しています。また、校門の鍵番号についても、防犯上の課題から、一部の職員にのみ周知しておりますが、課題を整理したうえで、周知する対象者を検討します。
413		コロナ禍により、避難所として想定していた体育館に収容できる人数が減少したため、校舎にも避難者を入れる計画に変更されたのだと思うが、避難スペースである校舎を開ける鍵を持っていないことに、初動要員が不安を感じている。校舎の鍵を外部職員へ渡すことが無理であるなら、いざという時はどうすればよいのかという明確な指示を出しておくべきである。	
414		職員がいつ参集できるのか明確でないため、地区協でも学校の鍵を持てるようにしたほうが良い。	
415		北門は開けないのか。→南門のみ開ける。いくつも入口があると総合案内に来ないで、直接体育館に人が来てしまい混乱する。	
416		震災時南門のみ開けるとのことだが、地震の影響でみんなの森の木が倒れて南門が入れないことも考えられる。通学路にもなっているため、北門、西門を開けないというわけにはいかない。校内に入れるところはいくつもあってもいいのではないかと。→外から入ったあとの動線が混乱しないように整理する必要がある。	
417		住民から、「門の鍵の番号」はどこまで周知していいのかわかるかと、との質問有り。地区協や自治会等で、備蓄倉庫の鍵を貸し出している者までとしてはどうか、と回答。備蓄倉庫に配備するマニュアル等に番号を記載することの検討が必要。倉庫内側に地図を貼り、そこに番号を記載してもいいかもしれない。	
418		体育館の入口ドアと、管理室のドアのかぎが、倉庫の物と合わなかった。確認を。	
419		だれでもトイレが体育館のみに設置されている。要配慮者等がお手洗いに行くためには、体育館に行くのだが、体育館に行くための通路にスロープがあるが木製であり、現在は腐食して壊れている状況である。スロープの設置と風雨の際の屋根等も含めて現状確認が必要である。	
420	体育館の床は固い。高齢者などはパイプ椅子や体育マットなども使わせてほしい。小学校はパイプ椅子がたくさんあるので、それらの活用を考えて。		
421	年配者が多いので、床に直に座るのは大変。椅子が必要である。		
422	小学校は椅子が多いため、どれくらいの個数をどの場所にするのか対応が必要である。		
423	AEDの場所を明示しておく→避難所利用計画図へ移動する		
424	トランシーバーのうち一つが充電できない（電源が入らない）		
425	停電時、携帯電話の充電はできるのか。		
426	体育館舞台のピアノにはストッパーが必要。		
427	職員体制について		今年度初めて、避難所リーダーを対象にリーダー研修を実施しました。避難所リーダーの指揮力を高めるほか、管理職やサブリーダー等の職員側の連携について共有を行いました。
428	係長職を避難所リーダーとしているため、年度当初の通常業務に加え、この時期の訓練は、事前準備や訓練当日、地域との調整など負担が大きい。サブリーダーも協力的ではあるが他の職員や地域の方との協力体制に苦慮している。サブリーダー向けの研修（説明会）や地域向けの説明会を実施してもよいのではないかと。	避難所において指揮を取れる人材は、地域住民を含めて複数人いることが望ましいと考えています。今後、地域と職員が協働し、避難所開設を行っていく中で、どのような形で指揮系統を行っていくのかを整理し、訓練を実施することを検討します。	
429	避難所運営リーダーの負担が多い。上記にも記載のとおり、本来であれば、学校のことを熟知している学校職員が先導する仕組みが必要ではないでしょうか。（学校職員が必ずしも近隣に住んでいるとは限らないことも承知していますが。）	市職員と地域の方が協働で訓練できる機会は限られており、市職員の防災力向上のためにも、「防災教育の日」における訓練の継続は必要であると考えますが、リーダー・サブリーダーを含めた職員の負担軽減に繋がるよう、事前説明会、資料の改善に加え、訓練内容についても検討します。	
430	今回の訓練を通してリーダーの負担が大きいと感じた。リーダー、サブリーダーが打ち合わせ等を通して役割分担ができていて良いと思う。実際の緊急時にリーダーが参集できる可能性が低い場合の避難所については職員配置についても工夫が必要。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
431	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	派遣リーダーの負担が重いと思う。役割分担を全体で決めてほしい。例えば、司会しながら記録は無理だったので、管理職が記録担当になりよかった。当日は、全体をみながら、細部のことまでできない。とても地域の人の対応など他の事までやる余裕がないが、ひとりでやるしかない、やるが多すぎてとにかく大変、非常に負担感がある。複数リーダーでもいいのではないかと。日程も忙しい時期で負担感がある。	今年度初めて、避難所リーダーを対象にリーダー研修を実施しました。避難所リーダーの指揮力を高めるほか、管理職やサブリーダー等の職員側の連携について共有を行いました。避難所において指揮を取れる人材は、地域住民を含めて複数いることが望ましいと考えています。今後、地域と職員が協働し、避難所開設を行っていく中で、どのような形で指揮系統を行っていくのかを整理し、訓練を実施することを検討します。
432		リーダーの負担軽減について検討いただきたい。新たに任命された場合や学校異動があった場合に、説明会の内容だけではとても対応できないため、学校に依頼をして事前に現地確認を行ったり、防災教育の日の流れや役割分担等工夫しながら資料を作成し、メンバーに資料を配付しているリーダーが多く存在する。年度当初の繁忙期において資料作成や各種連絡調整等、時間的にかなり負担が大きい。配付資料のひな形を提供いただくだけでもかなり負担感が違うのではないかと。直前に指定されたリーダーも多いことから、事業の円滑な実施のためにも対応いただきたい。	市職員と地域の方が協働で訓練できる機会は限られており、市職員の防災力向上のためにも、「防災教育の日」における訓練の継続は必要であると考えますが、リーダー・サブリーダーを含めた職員の負担軽減に繋がるよう、事前説明会、資料の改善に加え、訓練内容についても検討します。
433		「リーダー⇒サブリーダー⇒避難所職員」と役割を振って訓練するよう研修で説明を受けていたが、これまでの流れを汲んで避難所設営以外は自分でやることにしていたら、任せるところが自分の考えと異なっていたり、指示待ちの職員が出たり、地域住民が手持無沙汰になったりで大変だった。次回以降は、サブリーダー以下の職員全員及び地域住民まで、細かな役割分担と指示事項を伝えて臨む必要があると感じた。	
434		職員の側からは、リーダー・初動指揮者が不在の時は、だれが指示するのかといった指揮系統に関する質問が多く出されました。サブリーダー・各職員に不在時の指揮者順位をつけるなどの整理したほうが良いかと思います。今回はサブリーダーが中心となって、相応の水準で訓練ができたと思いますが、より一層当事者意識を持ってもらうため、説明会の段階から、多くの作業をサブリーダーに任せる旨を積極的に発信し、認識させたほうが良いかと思います。また、これまで、避難所設営・通信訓練・建物利用調査や応急給水栓など多岐にわたる技術的な訓練を行っていますが、習熟度の劣化が心配です。サブリーダーを中心にそれぞれの訓練を再履修する機会を検討してもよいのではと考えます。※現地で訓練動画を見れるとよいという意見もそれなりに耳にしました。動画なら予習・復習・現地での確認など、効率的に確認ができるのではないかと考えます。	
435		管理職、リーダー、サブリーダーは、地域住民の方よりも30分以上早く集合した。地域の方と同じ時間では当日の確認、準備ができない。	
436		リーダー格を係長職とするから、一定数係長職に上がろうとしない者が出ると思うので、避難所の要職は、主任、特に長期間主任にとどまっているような者を充てるのが良いかと思っています。	
437		避難所担当職員は、2次避難所担当職員と兼務しない配置をお願いしたい。特にリーダーは一次避難所の要となり、リーダーが不在になると一次避難所運営に支障をきたすので特に兼務しないようお願いいたします。	
438		今回から管理職が参加したが、訓練だけではなく、それ以降もその避難所担当になることは後で知った。実際にその避難所までかけつける時間なども考慮しての配置はどうか。	
439		組織的対応について、●●小は全ての任命区分を合わせて16人の担当者が配置されているが、6人が欠席であった。事前の出欠確認で初動指揮者やサブリーダーが含まれていたが、説明会にも当日訓練にも参加しない職員をサブリーダーに指名するのはいかがなものか。また、同じ課で出席できない職員複数名を同じ避難所に当てるなど、組織としての対応にも問題があると感じる。参加している職員は、本来業務が多忙であっても自覚と責任感を持って参加している。改めて避難所担当となる部・課に対しては組織的な対応と自覚を促していただきたい。些細なことだが、こうしたこともリーダーの負担になっている。リーダーについては、何年も同じ職員が担うのではなく、主任職など若手職員にも経験させることを要望したい。	
440	●●学校の避難所担当職員として名簿掲載のあった●●さんが別の避難所担当職員ともなっており、●●学校のサブリーダーが1名欠如している状況にあった。名簿について、確実に確認しておいてもらいたい。		
441	図上訓練や意見交換などの際、避難所利用計画の内容について、参加者からリーダーに質問や意見が出される場面があった。リーダーは訓練の参加者の一人であり、進行がスムーズにいくように骨を折ってくれているが、本部の作った計画や考えをすべて把握しているわけではない。本来なら、総合防災安全課の担当者など、実際に計画を理解している職員が入る必要があると思う。人間的に難しいとは思いますが、せっかく行っている訓練で毎年同じような質問や意見が出るのは残念だと思う。		

令和4年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書

番号	項目	意見等	検討の方向性等
442	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	●●小は8人の新人職員の参加があった。半数程度の職員の私語が目立った。地域市民の手前、注意もできないので、次年度以降も継続する場合は参加に当たっての姿勢を正すべきと考える。また、新入職員への対応もリーダーが担当するため、訓練以外の負担は増えることを理解していただき、毎年同じ学校での参加にはしないでほしい。	今年度初めて、避難所リーダーを対象にリーダー研修を実施しました。避難所リーダーの指揮力を高めるほか、管理職やサブリーダー等の職員側の連携について共有を行いました。 避難所において指揮を取れる人材は、地域住民を含めて複数人いることが望ましいと考えています。今後、地域と職員が協働し、避難所開設を行っていく中で、どのような形で指揮系統を行っていくのかを整理し、訓練を実施することを検討します。 市職員と地域の方が協働で訓練できる機会は限られており、市職員の防災力向上のためにも、「防災教育の日」における訓練の継続は必要であると考えますが、リーダー・サブリーダーを含めた職員の負担軽減に繋がるよう、事前説明会、資料の改善に加え、訓練内容についても検討します。
443		●●学校職員3人が訓練に出席していたが、地域住民との意見交換時、1人（用務員）は、地域住民側の椅子に座り、質問や改善を職員側に求めていた。同じく、1人（●●？）も他人事のようにリーダーに質問。学校職員であれば、校内の状況を熟知している訳であり、本来ならば職員側に立って応える立場であるが、職員として出席している意識は全くなかった。	
444		当日、訓練実施中に災対服を着た職員？が数名来たが、うち1人のみ「総合防災安全課の職員である」と挨拶のうえ、その後の訓練に帯同し様子を見たり、意見交換では総合防災安全課としての回答をしてもらえた。残りの職員？については、どこ所属で何を目的に来たのかも伝えないまま訓練の様子を見ていた。写真を撮ったりしていたようだが、事前に知らされていない職員などが視察等の目的で訪問する場合は、少なくとも避難所管理職には挨拶のうえ見学することを徹底してもらいたい。	
445		地域の方は、発災時に自分たちが避難することを想定して、様々な御意見・御質問をお持ちである。しかし、毎年この訓練では市職員は総合防災安全課の職員がいないため、質問に対する明確な回答や要望の受け止めができない。このため、次回以降は各避難所に総合防災安全課の職員を一人ずつ配置するようにしてもらいたい。	
446		意見交換時に、地域から「職員は指示を明確にできるようにしてもらいたい」との意見が多く挙がった。実際の避難所開設となると、職員がどの程度参集できるかわからないため、リーダーに限らず他の職員も率先して動き、指示できるようになることが必要だと考える。各学校のマニュアルはあるが、それ以外に災害時や避難所開設の一般的なマニュアルを職員に配布するなど、職員の知識を高めるとともに、意識を変える必要がある。	
447		職員は、地域と協力できるように指示命令できるようにしてもらいたい。	
448		土日開館施設の職場から、複数の職員が動員されてしまうと、通常の開館業務に支障をきたしてしまう。実際に避難所が開設された場合に動員されることを想定した訓練は重要だが、毎年、この訓練のための負担が大きすぎる。せめて1施設から参加者1人など、人数をしぼってほしい。	
449		4月5日付事務連絡で「避難所担当職員の割当て」を依頼されていますが、3月の内示後すぐに事務連絡を出しても良いかと思えます。子ども生活部は保育園や児童館とも調整する必要があるので、期間にゆとりがあると助かります。	
450		●●課から現在避難所リーダーを3名（すべて係長職）選出しています。しかし、調布市事業継続計画では、非常時においても●●課の窓口は継続することになっています。避難所リーダーは判断を伴う重要なポストと考えますので、非常時に窓口を休止する部署から選出することが適切と考えます。非常時に窓口業務に係長を配置せずに業務を継続することは困難です。	
451		避難所要員になる部署が少なすぎるため、候補者の選定に各部苦慮している（当該部は時短や病休者も多く送り込まれている）、総務部はじめ行政経営部や生活文化スポーツ部などの職員の一定数を避難所要員の枠にすればよいと思います。福祉健康部は福祉避難所要員も兼ねており、電話でも総合防災安全課には伝えましたが、福祉健康部職員を避難所リーダーやサブリーダーに配置するのは、本来の趣旨からすると好ましくありません。ただ、頭数だけそろって訓練ができればよいということであれば仕方ありませんが本番は混乱すると思います。なおかつ、災害直後の市役所窓口運営も求められた場合は業務が回りません。	
452	保育園や児童館で勤務している職員は参加が難しい。		
453	訓練の実施時期について再考が必要では。4月は人事異動から間もないため、市職員も学校教員もバタバタしており、余裕がないと感じる。学校や時期の都合もあるとは思いますが、この時期にこだわらず、柔軟に時期の設定をしたほうがよい。（地域の方から）		
454	4月は、市も教員も新体制となり、児童・生徒も新しい環境となっており落ち着かない。慌ただしい時期のため、ゆっくり打合せができるような時期に日程変更したらどうか。4月からの変更が必要である。		

番号	項目	意見等	検討の方向性等
455	職員体制について（リーダー・サブリーダー等）	保育園のように土曜日出勤のために訓練に参加できないのは仕方がないが、今回、前日になって急に不参加を表明する職員が複数名いた。参加職員は休日をおして出勤している。業務である旨、改めて職員に周知してもらいたい。（本来、当然のこと過ぎて教育総務課・総合防災安全課にお伝えすることではありませんが、不公平感が否めないため記述しました。）	今年度初めて、避難所リーダーを対象にリーダー研修を実施しました。避難所リーダーの指揮力を高めるほか、管理職やサブリーダー等の職員側の連携について共有を行いました。 避難所において指揮を取れる人材は、地域住民を含めて複数人いることが望ましいと考えています。今後、地域と職員が協働し、避難所開設を行っていく中で、どのような形で指揮系統を行っていくのかを整理し、訓練を実施することを検討します。 市職員と地域の方が協働で訓練できる機会は限られており、市職員の防災力向上のためにも、「防災教育の日」における訓練の継続は必要であると考えますが、リーダー・サブリーダーを含めた職員の負担軽減に繋がるよう、事前説明会、資料の改善に加え、訓練内容についても検討します。
456		そもそも参加者が多く、一人ひとりの訓練に参加している意識が希薄になりがちである。●●高校の参加者からは、●●高校で行いたいとの希望があった。	
457		●●高の避難所訓練も実施して欲しい。	
458		●●高校での避難訓練を1度でいいから行ってほしいとの意見がありました（いつも●●学校と合同となっているため）	
459		●●高の食糧がどのように運搬されるのか詳しく知りたい。	
460		今回、●●学校・●●高校合同訓練実施。●●高校担当者から、実際に避難所を運営する現場で訓練できない（校内の配置、備蓄倉庫の内容確認等）ことは非常に不安。都立施設担当者向けのフォローが必要との声あり。	
461		地域住民からは、避難所要員も●●学校の近くに居住している人に担当して欲しいとの要望がありました。	
462	参加地域住民から、市職員担当者が避難所周辺居住とは限らないことは不安との意見あり。		
463	発災時の対応に不安。市の職員や学校職員が直ぐに対応してくれるのか。		
464	避難所運営の職員配置について、特にリーダーの二次避難所兼務はやめるべきという強い要望が出た。二次避難所の開設決定が出た際に、開設から統括指示を担っていたリーダーが交代すると避難所運営に支障をきたすだけでなくスタッフや地域の方にも負担を強いることになるので再考するように、地域としては受け入れ難いという厳しいご意見をいただいた。	初動要員以外の職員については、必ずしも避難所に近い場所に居住していないため、地震などの突発的に避難所を開設する必要がある際は、初動要員と地域の方々と協働し、開設する流れを想定しています。また避難所開設や運営を行う人員については、職員数に限りがあることから、より良い庁内での体制を引き続き検討します。	
465	市の防災対策	一時避難所を近隣公園等に設置して欲しい。（自治会等の地域レベルで避難の拠点とするため。）	震災などで長期的な避難生活を送る場合は、小中学校等の指定避難所に避難することになりますが、発災当初は公園などの一時集合場所に避難し、安否確認を行った後、自宅が安全な場合は、自宅に避難し、自宅で過ごすことが難しい場合は、避難所に避難する流れになります。
466		●●学校より高い位置にあるマンションは、浸水の可能性が低いので、避難の一時受け入れをお願いしても良いのではないかと意見あり。	
467		指定された避難所の運営体制を整えるだけでなく、近所の公園で避難する体制を整えてほしい（手厚い物資支援など）との意見がありました。（その方が、地域の自治会として動きやすいとの事でした）	
468		周辺の大型マンション等にも一時避難場所として協力を求めてもいいのではないかと。	

2-3 意見交換で出された意見について

避難所利用計画を用いて、「発熱者等避難場所」、「要配慮者避難場所」、「ペット避難場所」、の代替場所及び「避難者名簿(新様式)」について意見交換を行いました。

意見交換結果(協働による訓練に参加された地区協議会の方等、地域の方から職員が聴取した意見等が含まれています)については、避難所利用計画見直しの際、参考にいたします。

●発熱者避難場所について

出された意見の概要:学童クラブ, ユーフォールーム, 半地下教室, 多目的室, 音楽室, 特別支援教室など

●ペット同行避難場所について

出された意見の概要:ユーフォールーム, プール更衣室, 理科室, PTA室, 多目的室, 弓道場など

●要配慮者等避難場所について

出された意見の概要:学童クラブ, ユーフォールーム, 普通教室, 理科室, 教材室, 図書室など

●避難者名簿の新様式について

出された意見の概要:

- ・書式を統一したことは良い。
- ・受付番号の記載スペースが小さい。
- ・世帯主の表現を改める必要がある。
- ・記載させるのではなく○をつけるだけに簡素化してほしい。
- ・避難者1人ひとりに渡すのではなく, 1世帯に1枚渡し, 管理番号を付番するように変更したらどうか。
- ・アレルギーの有無は, 詳細は裏面对応として, 表面の目立つ場所に標記すべき。
- ・名簿とシートの付番だけで避難者の管理は難しい。番号付きのネックストラップを配布してはどうか。
- ・記入項目が多いと大変なので, もっと簡略化してほしい。 など